



AMAMI CITY 20th Anniversary of Establishment

奄美市市制施行20周年

自然・人・文化が紡ぐ

しあわせの島



奄美市市制施行20周年記念紙

みんなで築こう「しあわせの島」

奄美市長 安田 壮平



産に登録された豊かな自然環境、多様な個性あふれる伝統文化、そして温かく思いやりに満ちた人々のつながりという、掛け替えのない財産を守り育てながら、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

令和8年3月20日、奄美市は市制施行20周年という重要な節目を迎えました。平成18年3月20日、旧名瀬市、住用村、笠利町が合併し、新たな自治体として奄美市が誕生してから20年となります。それぞれの地域が培ってきた歴史や文化、暮らしを礎に、「ひとつの市」として歩み始めたあの日から、本市は市民の皆さまと共に着実に発展してきました。本日この日を迎えられましたことに、心より感謝を申し上げます。

この20年間、歩みは決して平坦なものではありませんでした。特に、平成22年10月に発生した奄美豪雨災害は、市内各地に甚大な被害をもたらした。多くの市民の生活に深刻な影響を与えました。しかし、地域の絆を支えられ、復旧・復興に向けて共に乗り越えた経験は、私たちの地域社会にとって貴重な財産となり、防災・減災への取り組みを強化する契機となりました。

また、新型コロナウイルス禍におきましても、市民の皆さまと共に困難な時期を乗り越え、今があることに深い感謝の気持ちを抱いております。この言葉には、本市の宝である自然、人、文化が互いに響き合いながら、市民一人ひとりの安心と希望につながるまちを築いていきたいと思います。子どもたちが夢を描き、若者が挑戦し、高齢者が生きがいを感じられる環境づくり、産業振興やデジタル化の推進、医療・福祉の充実などを通じて、誰もが誇りを持って暮らせる島の実現に向けて、さらに邁進してまいります。

その一方、令和5年には、全国高等学校総合文化祭「2023かごしま総文」の郷土芸能部門が本市で開催され、地域の文化や伝統芸能を全国に発信する貴重な機会となりました。また、同年には「かごしま国体相撲競技会」が行われ、多くの選手や関係者が集まりました。このような大規模なスポーツイベントや文化交流の場が本市で実現したことは、本地域がさらなる発展を遂げ、外部とのつながりを深めるための重要な一歩となりました。

少子高齢化や人口減少、社会経済情勢の変化など、多くの課題に直面している中でも、本市は世界自然遺

産に登録された豊かな自然環境、多様な個性あふれる伝統文化、そして温かく思いやりに満ちた人々のつながりという、掛け替えのない財産を守り育てながら、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

本市総合計画において、「自然・人・文化が紡ぐしあわせの島」を将来像として掲げております。この言葉には、本市の宝である自然、人、文化が互いに響き合いながら、市民一人ひとりの安心と希望につながるまちを築いていきたいと思います。子どもたちが夢を描き、若者が挑戦し、高齢者が生きがいを感じられる環境づくり、産業振興やデジタル化の推進、医療・福祉の充実などを通じて、誰もが誇りを持って暮らせる島の実現に向けて、さらに邁進してまいります。

この20周年は、これまでの歩みを振り返るとともに、次の時代に向けた新たな出発点です。先人の努力と市民の皆さまの支えに深く感謝申し上げますとともに、これからも力を合わせ、未来へと続く奄美市の歩みを共に築いていく所存です。本市のさらなる飛躍のため、市民の皆さまの変わらぬご支援とお力添えをお願い申し上げます。市制施行20周年にあたってのごあいさつといたします。



目次 / CONTENTS

市長メッセージ、市民歌……………2

来賓祝辞（鹿児島県知事、大島郡町村会会長、奄美市議会議長、各郷友会会長）……………3

奄美市20年の歩み（年表）……………4～7

小学校・中学校紹介……………8～11

「挑む」

榮 完治さん一家（さとうきび農家）……………12

元井 雄太郎さん（果樹農家）……………13

南 利郎さん・和利さん（養鶏・6次産業化）……………14

元 允謙さん（大島紬製造・販売）……………14

深田 小次郎さん（地域の情報発信・店舗運営）……………15

「繋ぐ」

新元 一文さん（歴史・文化継承活動）……………16

矢吹 飛鳥さん（二地域居住で島内外連携活動）……………17

「守る」

東郷 はるみさん（食生活改善推進員）……………18

平城 達哉さん（奄美博物館）……………19

三浦 和美さん（民間の立場から防災活動）……………20

防災体制構築へ行政各機関連携……………21

「奄美市に望む」市民の声……………22～23

20歳の皆さんと奄美市長の座談会……………24～27

絵で見る奄美市民の暮らし……………28～29

未来の奄美市づくり計画……………30

令和8年度予算案……………31

記念式典プログラム、市政功労表彰者名簿……………32

奄美市民歌

輝く未来へ

作詞 保岡 直樹
作曲 原田 敬子

一 美わし海よ 香し森よ
いのち燦めく きよらの郷
人と自然が 和になつて
豊かな文化の 花ひらく
心うるおす 奄美市は
希望と笑顔に 満ちるまち

二 チヂンの響き 八月踊り
風にシマ唄 夢を呼ぶ
ネリヤの海から 訪れる
稀人もてなす 伝統よ
心を紡ぐ 奄美市は
恵みと平和を 祈るまち

三 競う舟こぎ みなぎる力
虹のしぶきに 沸く港
光をつかんで 伸びてゆく
大空仰ぐ ガジュマルよ
ともに肩よせ 奄美市は
輝く未来へ 進むまち

奄美群島の拠点、さらなる発展へ

鹿児島県知事 塩田 康一



を代表する先史時代遺跡として知られる「史跡宇宿貝塚」など、多様な地域資源を数多く有しております。

平成18年3月20日に奄美市市制を施行され、このたび、20周年の節目を迎えられますことを心からお喜び申し上げます。

この間、関係の皆さまと一体となって産業の振興や福祉の増進など、市政各般の施策の推進に尽力されてきた、歴代の市長、市議会議員、関係団体及び市民の皆さまに、深く敬意を表します。

世界自然遺産の島「奄美大島」の北部に位置する奄美市は、県内離島において最大の人口・面積規模を有する奄美群島の拠点都市です。美しいサンゴ礁の海が広がりに、眼下に太平洋を一望できるあやまる岬のほかに、日本で2番目に大きいマンングロープの原生林やアマミノクロウサギなどの貴重な生き物が生息する金作原原生林が広がるなど、豊かな自然に恵まれております。

また、伝統的工芸品である大島紬や黒糖焼酎などの地場産業、島唄や八月踊りなどの島特有の伝統文化のほか、奄美群島で初めて国史跡に指定され、南西諸島

を代表する先史時代遺跡として知られる「史跡宇宿貝塚」など、多様な地域資源を数多く有しております。現在、奄美市におかれましては、奄美市総合計画において、「自然・人・文化が紡ぐ、しあわせの島」を将来像に掲げ、住民の皆さまの生活満足度向上や元気の経済活動、しまの誇りの継承を目指して、各般の施策に取り組み、今後はさらなる発展が期待されております。

リーダーシップに期待

大島郡町村会会長 高岡 秀規



奄美市市制施行20周年、誠にありがとうございます。大島郡町村会を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

平成18年3月20日に名瀬市、住用村、笠利町が合併して奄美市が誕生し、奄美群島の中核都市として、行政、経済、医療、教育、文化の各分野において着実な歩みを重ねてこられました。この20年の歩みの中では、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行という、かつて経験したこ

どのない困難に直面し、地域経済や市民生活に大きな影響を及ぼしましたが、安田市長をはじめ、市民が一丸となつてこの局面を乗り越えてこられました。市民の皆さまお一人おひとりのためまめ努力と、関係者の皆さまのご尽力に、深く敬意を表する次第であります。

奄美市では「自然・人・文化が紡ぐしあわせの島」自然もひと多様性を尊重し合えるなつかしい未来都市「奄美」を基本理念に掲げ、奄美らしい多様な自然や文化を、時代の変化の中にあがりながら受け継ぎ、守り、さらなる発展に向けた取組を進めておられます。これらの取組は、令和3年に世界自然遺産に登録された奄美の豊かな自然や

伝統文化を、奄美群島全体で共有し、守り、次世代へと引き継いでいくものであり、今後の島づくりの大きな礎として、奄美群島の持続的な発展につながるものと確信しております。

また、近年の奄美市政の現況として、財政状況がより改善され市税収入が過去最高になるなど、明るい兆しが見られることは誠に喜ばしい限りであります。安田市長におかれましては、これからもますますのリーダーシップを発揮され、群島の中核都市である奄美市の発展を牽引していただきますようお願いいたします。

結び、本日栄えある表彰を受けられた皆さま方に、心からお祝い申し上げますとともに、奄美市の今後ますますの発展と、市民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。祝辞とさせていただきます。

誇りある奄美市を実現

奄美市議会 議長 多田 義一



奄美市は、本年、合併20周年という記念すべき節目を迎えました。この意義深い年を迎えるにあたり、これまで本市の発展に尽力いただいた全ての方々にご厚意を申し上げます。

平成18年3月、旧名瀬市、住用村、笠利町の合併により誕生した本市は、市民の皆さまのご理解と協力、そして先人の英知と努力に支えられ、着実に歩みを進めてまいりました。地域ごとの歴史と文化を尊重しながら一体感の醸成に努めてきた20年は、まさに奄美市の礎を築く歳月であったと感じております。

この20年を振り返りますと、平成22年・23年には、大規模な被害をもたらした奄美豪雨災害を経験し、また、近年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、市民生活や地域経済は大きな影響を受けました。しかしこれらの困難に直面しながらも互いに支え合い、乗り越えてきた市民の皆さま、「結」の姿は、本市の誇りであり、心より感謝申し上げます。

そのような中、令和3年には奄美の豊かな自然が世界的に評価され、ユネスコの世界自然遺産に登録されるという歴史的な喜びを分かち合いました。また令和5年には、奄美群島日本復帰70周年という節目を迎え、先人の苦難と努力の歴史に思いを致し、平和と郷土への誇りを新たにしたいと考えております。これらの出来事は、過去を振り返るだけでなく、未来を

新たな出発点、力強く歩んで

東京奄美会会長 宮地 正治



去る2月8日、赤坂はホテルニューオータニのほつり、中華料理店、維新號の二階で昼食を楽しました。帰りがけ中階の踊り場の上に「揚敬書」とした漢詩が掲げられていた。見れば晩唐の詩人・杜牧の江南の春ではないか。

千里鶯啼緑映紅 水村山郭酒旗風 南朝四百八十寺 多少樓台煙雨中 何と心地良く響きの佳い漢詩でしょう。恩師は念を推す「中（なか）ではなく、

中（うち）と読むのだ」とその温容を想い浮かべながら、私の心は早、郷里奄美の山河へ飛んでいた。春ともなれば山野の梅・梅枝・トベラ・椎木の若葉は紅く輝き、当に奄美全体が緑に映り出すのだ。小鳥のメジロは花を追って飛び回り、アカショウビンは山の岬でコキヤル、コキヤルと鳴きわたる。夜ともなればフクロウがコオフオツ、コオフオツと鳴き続けている。今となつては不気味ではなく懐かしさを感じる。

この緑染めなす美しい奄美の好時節に安田壮平市長は奄美市制施行20周年の記念式典を市民と共に祝つて言う。心からおめでどうと申し上げたい。思えば早、20年も前になつてしまふか。名瀬市、笠利町、住用村の三市町村が合併して奄美市が誕生するとの報道にこの合併で奄美は、より飛躍するとの確信を持った。私は以前より瀬戸内町は奄美町に大島海峡は奄美海峡に変更する提唱者であった。私が上京して間もない頃、出身地はの間に奄美大島と答えたら、行きたいと言つた。話が弾んで気が付いたら相手は伊豆の大島のつもりで話していたのだ。東京で、名瀬、笠利、住用と云つても余程の人でない限り、実感が湧かない。東京では奄美と言えはあはれ鹿児島県の奄美と聞きかた。先人は誠に良い市名を冠したものだと思つた。この間、奄美大島は、2021年に世界自然遺産に登録され、今後は観光の奄美市としてさらなる発展を続けることを信じます。

末筆ながら、安田市長はじめ、市民の皆さまのご健勝とご多幸、そして奄美市のますますの発展を祈念申し上げます。祝辞とさせていただきます。

故郷との懸け橋に

関西奄美会会長 先山 和子



奄美市が誕生して20年の節目を迎えました。「二十歳の誕生日」、誠にありがとうございます。関西奄美会を代表して心よりお慶び申し上げます。

私は沖永良部島の知名町田出身です。田中中学校を卒業後、親元を離れ、県立大島高校へ進学し3年間、寮や下宿で暮らしました。名瀬の街は青春の思い出が詰まった大切な場所

平成18年3月、3市町村の合併に伴い、奄美市が誕生しました。この20年の間、奄美市および奄美群島は世界に注目される地域になりました。平成26年、令和4年の県立大島高校の二度にわたる甲子園出場は、私たちが出身者として故郷の絆の強さを思い起こさせました。離島のハンディを創意工夫で乗り越えた若者たちの姿は、全国のシマチュウに大きな勇気を与えました。関西奄美会や関西安慶会も、そのお手伝いができたことをうれしく思っています。令和3年には「生物多様性」が評価され、奄美大島と徳之島がユネスコの世界自然遺産登録を受けました。LCCの運航も順調で、奄美への「追い風」を感じる日々です。

私たち関西奄美会は昨年度からの2年間、「故郷」まとの懸け橋、新しい時代に新しい風を」とのテーマを掲げ、活動してまいりました。「ふるさとシマめぐりツアー」（4月）、「大阪・関西万博への出演」（6月）、「世界奄美ファンフェス」の開催（8月）、「島エキスポ」出演と交流（9月）、第一回感謝交流会、異業種交流会（開催（11月）、オンライン会議の定例化（12月）など、さまざまな事業に取り組んでいます。島めぐりツアーでは50人の参加者が島々の自然や文化、人情に触れて新たな絆も芽生えました。万博への出演を通して奄美を世界にPRすることもできました。世界奄美ファンフェスは若い世代が中心となつて企画し、奄美会の新しい姿を示すことができたと考えております。

関西奄美会の会員の心には、いつも「故郷・奄美」があります。安田壮平市長が目指す「しあわせの島」づくりに期待するとともに、奄美市のさらなる発展のため、私たち出身者や二世、三世が少しでも寄与できれば幸いです。「シタタイ、ミハデロド」（本当に、ありがとう）でございます。

奄美市の歩み

【2006年
(平成18年)】

3月20日 名瀬、住用、笠利3市町村が対等合併し「奄美市」新設。(05年国調人口計4万9617人、名瀬4万1049人、住用1784人、笠利6784人)。奄美市役所本庁(名瀬総合支所)、住用総合支所、笠利総合支所が開庁



奄美市役所開庁式でテープカットする関係者＝3月20日

【2007年
(平成19年)】

3月7日 住用町のサン奄美が農山漁村女性チャレンジ活動表彰起業活動部門で県初の農林水産大臣賞(2月18日付)
3月25日 奄美市誕生1周年記念祭。奄美市の市花はハイビスカスとシヤリンバイ、市木はガジュマルとリュウキュウマツと発表
4月14日 名瀬大熊の区画整理(96～2006年度)竣工記念碑完成
5月1日 「あまみエフエム」が開局
6月10日 奄美市誕生1周年記念で「NHKのご自慢」公開生放送
8月5日 旧3市町村の市町村歌をつないだ「奄美大行進曲」が完成
9月21日 国の文化財保護審が笠利町用安の蘭家住宅主家、奄美はしゃ山村民俗村安田家主家などの有形文化財登録を文科相に答申
10月5日 奄美市と西日本プラント工業、共同出資の風力発電事業会社「奄美大島風力発電」設立(9月26日付)を発表
10月21日 在任特例の任期満了に伴う奄美市議選告示。定数26に28人立候補
11月29日 奄美市議会、伊東隆吉議長、叶幸与副議長選出
12月12日 奄美市一集落1ブランド、第1弾で17ブランド承認
2月18日 奄美市の戸籍総合システム稼働
3月18日 県文化財保護審、節田マンカイなど9件を県文化財登録答申
3月31日 市道山田線開通式
4月1日 笠利、住用、大和の3商工会が合併「あまみ商工会」に

【2011年
(平成23年)】

5月28日 普天間飛行場移設問題で、政府が日米共同声明を発表、訓練移転先に徳之島一明記
6月10日 奄美市で子ども手当(1人当たり月1万3千円)スタート
7月31日 奄美まつり舟こぎ競争、佐大熊地区に移転し初開催
8月4日 奄美市、電子入札を試験運用開始
9月1日 奄美一鹿児島線にスカイマーク就航
9月1日 新笠利給食センター供用開始
9月28日 一集落1ブランドに住用町の2件追加
9月30日 名瀬商店街の旧Aiiひろば閉鎖、解体へ
10月6日 新奄美市公設地方卸売市場落成(12日から競り)
10月20日 奄美大島で豪雨、3人死亡。各地で家屋浸水被害や崖崩れ相次ぐ。住民避難も。午後10時までの24時間雨量、名瀬で過去最多64.7ミリの豪雨。横濱ベイスターズ、初の秋季奄美キャンプで来島政府閣議決定、奄美豪雨を局地激甚災害に指定
11月19日 横濱ベイスターズ奄美キャンプ経済効果6億9千万円(奄美市試算)
12月26日 本場奄美大島細協組110周年記念祝賀会
1月21日 第3回奄美桜マラソン奄美豪雨で笠利町の太陽が丘運動公園発着に
3月11日 東日本大震災。奄美にも津波警報、避難勧告
3月27日 JACの奄美一福岡線、35年ぶり就航
4月1日 大島地区衛生組合、一般家庭ごみ有料化(指定袋に手数料上乘せ販売)
4月27日 住用町和瀬に「奄美市和瀬水産加工センター」落成
4月28日 奄美高校、新校舎落成記念式典
9月25日 奄美大島北部豪雨、奄美市や龍郷町で河川氾濫相次ぐ
10月1日 奄美大島5市町村、「飼い猫の適正な飼養及び管理に関する条例」施行
10月23日 市議選告示、定数24に30人立候補
10月27日 総務省、10年国調確定値発表。奄美市は4万6121人で5年前に比べ3496人(7.05%)減。奄美群島全体では12万人割れ
10月30日 奄美市議選投票、24議員決まる
11月2日 奄美大島南部豪雨。古仁屋で観測史上最多時間14.3ミリの豪雨。瀬戸内町全域に避難勧告。名瀬大川地区や住用町で被害も
11月25日 奄美市議会、向井俊夫議長、平川久嘉副議長選出



横濱ベイスターズが初の奄美秋季キャンプ。期間中には野球教室も＝11月7日



奄美市名瀬の中心街でも道路が冠水した＝10月20日、永田橋交差点

【2014年
(平成26年)】

10月8日 奄美市議会、「黒糖焼酎による乾杯を推進する条例」可決。同日施行
10月28日 奄美市教委、名瀬小石段を市文化財指定
11月9日 奄美文化センターで「奄美群島日本復帰60周年記念式典」(奄美12市町村で構成する実行委員会主催)
11月17日 奄美市長選で朝山毅氏無投票再選
12月10日 奄美市議会、竹田光一議長、大迫勝史副議長選出
12月20日 奄美海保に大型巡視船「あまぎ」(13550ト)配備
12月25日 復帰60年。各地でメモリアルイベント。奄美市では名瀬おがみ山で集い、高千穂神社でかがり火点灯など。再現提灯行列に1千人。名瀬小グラウンドには灯籠1400個
12月26日 奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会、登録候補地に「奄美大島、徳之島、沖繩本島北部および西表島」を選定
1月24日 大島高校、「21世紀枠」でのセンバツ出場決定。奄美勢初の甲子園
2月20日 奄美市一般会計補正予算に「大島高校選抜出場助成金」計上
3月20日 住用、笠利両総合支所で新庁舎開所式
3月25日 センバツで大島、龍谷大平安と対戦(大島高校が「応援団賞」)
3月28日 「奄振交付金」を盛り込んだ改正奄振法成立
6月7日 県立大島病院、全国離島初の救命救急センター開所式
6月17日 奄美市と鹿児島女子短大、包括連携協定
7月1日 LCCパニラ・エア、成田―奄美線就航
7月3日 奄美市議会、「自衛隊配備を求める意見書」を賛成多数で可決
7月19日 奄振交付金を活用した空・海の軽減運賃スタート
9月12日 住民基本台帳データで笠利、龍郷の人口逆転(7月末で笠利6010人、龍郷6068人)
10月8日 島山建設グループのケンキが名瀬本茶峠に整備したメカソーラー「本茶ソーラー発電所」完成
11月17日 「奄美ナンバー」交付スタート
12月7日 フェリー「飛龍21」最後の航海。東京―志布志―名瀬―沖繩航路の旅客輸送船無くなる



地元も心は一つ。スタンドにも「応援日本一」に輝いた＝3月25日、阪神甲子園球場



復帰60周年を祝う、ちょうちん行列＝12月25日

【2009年】
(平成21年)

4月28日 大島地区衛生組合の有良汚泥再生処理センター竣工
5月15日 名瀬デジタルテレビ中継局が地上デジタル放送の試験放送開始
6月21日 奄美交通のバス事業、道の島交通（現しまバス）へ譲渡
8月1日 名瀬中継局から地上デジタル本放送開始
8月9日 奄美市で原爆慰霊祭。高齢化で最後。県原爆被害者福祉協議会奄美支部は解散
11月2日 旧3市町村合同の奄美市民体育祭を初開催。8地区対抗奄美大島北部で豪雨
11月6日 国の文化財保護審が「赤木名城跡」の文化財指定答申
11月24日 県立図書館奄美分館、閉館
11月24日 奄美市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委、旧3市町村の介護保険料統一を答申
2月1日 第1回奄美桜マラソン（大勝小発着、本茶コース。973人）
2月5日 名瀬井根町で火災、19棟全半焼
2月9日 県教委、奄美高と大島工業高の統合決定
2月12日 文科省、赤木名城跡を国指定文化財に指定告示
3月25日 宇宿地区農業集落排水事業宇宿処理場完成、通水式
3月31日 参院で改正奄振法が成立
4月1日 名瀬佐大熊救急用ヘリポート運用開始
4月16日 本場奄美大島組協組の燃系工場休業
4月23日 県立奄美図書館開館
7月22日 皆既日食
9月18日 名瀬柳町で火災、8棟全焼
9月24日 奄美市、奄美大島の皆既日食経済効果試算「13億8千万円」



を人グラスの用をのの空を上げて見上げる
22日7月
7人=つちて食日

【2010年】
(平成22年)

10月9日 県教委、10年度公立高校募集で奄美高校に機械電気2学級
10月19日 旧県立図書館奄美分館に奄美市ICT人材育成センター開所
11月22日 奄美市長選、朝山毅氏初当選
11月27日 奄美市議会、世門光議長、与勝広副議長選出
12月22日 名瀬大熊に3セク風力発電施設竣工（26日稼働）
1月27日 米軍普天間飛行場の移設候補地に徳之島（報道で判明）
2月14日 奄美シマ博スタート
2月15日 徳之島3町、基地移設反対で決議書
3月9日 奄美市議会、米軍普天間飛行場の徳之島移設反対決議
4月1日 奄美市3地区水道料金、名瀬地区体系に統一
4月18日 徳之島で基地移設反対「1万人集会」（亀津新漁港特設会場に1万5千人）
4月27日 奄美市町村長会・群島議会議長会「基地移転反対」共同宣言
5月7日 徳之島3町長、官邸で鳩山首相と会談。「基地受け入れ拒否」伝える
5月21日 国の文化審議会、名瀬小湊の「小湊フワガネク遺跡」の国指定史跡を文科相に答申。奄美5例目

【2012年】
(平成24年)

11月26日 笠利地区漁業集落運営の水産物加工品市場「奄旨海房・魚匠」開所
2月6日 奄美市と豊中市が「空港で結ぶ友好都市提携」協定
3月2日 県立大島工業高校、閉校式。44年の歴史に幕
3月8日 笠利地区農林水産物加工施設開所式（旧笠利給食センター）
3月14日 奄美市、病児・病後児保育事業開始（奄美中央病院に委託）
4月1日 奄美市ポイ捨て禁止条例（空き缶、たばこの吸い殻、飼いのふんなど。違反者には罰金2万円）
4月8日 情報通信産業拠点「奄美市ICTプラザかさり」オープン
4月12日 名瀬末広町に交流拠点「新AiAiひろば」オープン
4月28日 奄美の観光や物産を一元的にセールする奄美群島観光物産協会設立総会
8月20日 奄美大島5市町村と国土交通省九州整備局、大規模災害時の応援協定締結
8月26日 台風15号、奄美地方を暴風域に巻き込む。12市町村で4万3千戸停電。宇検、龍郷の2町議選の開票は発電機で。和泊、知名、与論の3町は一週繰り延べ
9月29日 台風17号、与論で最大瞬間54.5㍉。三たひ各地で被害。住用総合支所（建て替えて当時中央公民館）は1階床上1㍉まで浸水。奄美海洋展示館は水槽に泥水
10月5日 奄美市が電気自動車を導入
11月17日 あやまる岬観光公園多目的ひろば開設記念式典。グラウンド・ゴルフコース配置
1月25日 名瀬古田町で火災、9棟全半焼
1月25日 奄美市、原付・バイクの「ご当地ナンバー」交付開始
1月28日 奄美市奄美大島選果場落成式（2月1日供用開始）
3月22日 奄美群島初、メガソーラー「あまみテイヤ発電所」竣工記念式典。竹山産業開発が笠利町用安に整備
3月29日 奄美市、建築協友会、管工事協同組合、大規模災害時の応急対策協定
4月1日 奄美市、世界自然遺産推進室設置
4月21日 笠利町節田に「奄美市ひと・もの交流プラザ」オープン
5月17日 笠利中生徒総会で丸刈り以外の髪型を認める校則見直し決定。奄美群島内の中学校の丸刈り校則ゼロに
7月5日 奄美市議会、世界自然遺産登録推進特別委設置。奄美大島5市町村、希少野生動物植物の保護条例制定
7月28日 奄美12市町村と沖縄北部12市町村、奄美パークで「奄美・やんばる地域交流宣言」調印
10月1日 希少野生動物植物保護条例施行。固有種を中心に57種の捕獲・採取禁止、違反者には1年以上の懲役または50万円以下の罰金
10月4日 奄美市の公式キャラクター、コクトくん商標登録（9月20日付）



新AiAiひろば

【2013年】
(平成25年)

10月4日 奄美市の公式キャラクター、コクトくん商標登録（9月20日付）



ラクチャ（左）とピンちゃん（右）が10月4日、お友達を紹介する

【2015年】
(平成27年)

3月21日 名瀬漁協女性部の簡易食堂兼加工施設「奄美小町」が漁協購買部横にオープン
3月22日 網野子トンネル（4243㍉）を核とする国道58号網野子バイパス（6820㍉）全線供用開始。総事業費150億円
3月27日 奄美大島5市町村策定の「奄美大島生物多様性戦略」が完成。複数の自治体共同策定は国内初。「人と自然が共生する社会」の構築を目指す
4月1日 奄美市、企画調整課に地方創生推進班を新設
4月11日 小・中学校の土曜授業、13年ぶり復活
4月22日 住用町西仲間に住用浄水場完成し、通水式
4月25日 鹿児島国際島嶼教育センターが旧名瀬保健所跡に奄美分室設置
5月11日 県の「かごしまの農林水産物」認証制度（K-GAP）で、奄美市パッションフルーツK-GAP推進部会が認証取得。奄美市で第1号
5月18日 奄美大島5市町村で「奄美大島総合戦略推進本部」設置
5月22日 奄美市名瀬で震度5弱の地震。ガラス破損の店舗も
7月8日 奄美市と県宅地建物取引業協会が「空き家等の媒介協定」を締結。奄美市の空き家バンク制度9月始動
7月24日 名瀬柳町で火災、19棟全半焼
8月10日 名瀬井根町で火災、14棟全半焼
9月7日 奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会、「世界遺産登録18年以降に」
9月12日 笠利町の赤木小学校新体育館落成。広さ1.5倍、避難所機能も
9月14日 名瀬港本港地区整備事業の埋め立て工事起工式
9月18日 奄美市市制10周年オリジナルフレーム切手発売開始
10月10日 奄美群島初の日本語学校「カケハシインターナショナルスクール奄美校」が開校。1期生14人入学
10月18日 奄美市議選告示、定数24に26人立候補
10月25日 奄美市議選投票開票、24市議の顔ぶれ決まる
10月25日 奄美で初のJFL公式戦、鹿児島ユナイテッドFC vs P京都FC（名瀬運動公園陸上競技場）に観衆3075人
10月31日 第30回国民文化祭・かごしま2015開幕。サテライト会場の奄美文化センターでは300人の八月踊り・六調
11月2日 農水省、奄美大島でのミカンコミバエ誘殺急増を公表
11月4日 農水省でミカンコミバエ種群の防除対策検討会議。奄美大島の生果実移動規制を決定。県、廃棄果実の全量買い上げ発表
11月9日 奄美市でミカンコミバエ発生に伴う国・県の現地説明会
11月14日 農水省、植物防疫法に基づく緊急防除省令を発表
11月16日 ミカンコミバエ防除でテックス板の空中散布開始（3月まで3回）
11月25日 奄美市議会、竹山耕平議長、師玉敏代副議長選出



立て埋め港の名瀬本格化した
9月14日、奄美市名瀬

【2016年】
(平成28年)

12月13日 農水省緊急防除省令に基づく島外移出規制始まる
 12月24日 政府、16年度当初予算案閣議決定。奄振は3%減の226億円。交付金で奄美・沖繩の運賃低減通年化へ。奄美大島の陸自配備に86億円
 1月24日 名瀬で115年ぶり雪観測。最低気温、筈利3・7度
 2月10日 奄美大島海区漁業調整委員会、シラヒゲウニの漁解禁期間を2カ月(7、8月)に短縮
 2月26日 総務省と県、15年10月1日実施の国勢調査速報を発表。奄美群島は11万215人で前回比7・2%減、奄美市は4万3184人で6・37%減
 3月11日 国の文化審議会、小湊フワガネク遺跡出土品1898点の重要文化財指定を答申
 3月20日 奄美市市制施行10周年
 3月31日 「中央公民館」と親しまれた名瀬公民館閉館。50年余の歴史に幕
 7月14日 ミカンコミバエの緊急防除省令を廃止。規制品目の島外移出全面解禁
 12月26日 環境省の中央環境審議会が奄美群島国立公園の指定認める



半世紀の歴史に幕をおろした名瀬公民館＝3月31日、奄美市名瀬



名瀬で115年ぶりの雪を観測。1月24日

【2017年】
(平成29年)

12月27日 奄美ドクターヘリ運航開始
 2月1日 政府は世界自然遺産登録に向けて「奄美大島、徳之島、沖繩島北部および西表島」の推薦書をユネスコへ提出
 3月7日 奄美群島国立公園誕生、国内34番目
 3月26日 バニラ・エア、奄美・関西国際空港線就航
 6月10日 奄美空港に米軍のオスプレイ緊急着陸。県内民間空港への着陸は初
 7月6日 島尾敏雄生誕100年記念の切手発売。9日に奄美市で講演会・シンポジウム
 8月4、5日 台風5号襲来。奄美大島と喜界島で「50年に一度の大雨」。住宅被害は400棟超。最大1万2900戸停電。土砂崩れや道路の冠水、断水も
 10月13日 ユネスコの諮問機関、世界自然遺産候補地の奄美大島調査
 11月19日 奄美市長選、朝山毅氏再選(3期目)
 12月8日 奄美市議会、師玉敏代議長、戸内恭次副議長を選出
 1月7日 「西郷どん」放送開始。奄美への交流人口拡大に期待高まる
 1月27日 奄美市筈利町で火災、住家や倉庫など19棟焼く
 2月8日 奄美群島各地に漂着した油の回収、奄美市名瀬で始まる
 3月5日 フェリー波之上、奄美・屋久島航路就航
 6月16日 奄美市の都市計画道路「末広港線」供用開始
 7月1日 JAC、奄美大島・徳之島・沖永良部島・沖繩本島の「アイランドホッピングルート」開設

【2022年】
(令和4年)

3月20日 奄美市市制施行15周年
 4月18日 岸信夫防衛相が奄美市名瀬の陸上自衛隊奄美駐屯地など視察
 4月19日 奄美文化センターに奄美ワクチンセンター開設
 4月27日 東京オリンピック聖火リレー開催
 7月8日 東京オリンピック開催
 7月26日 「奄美大島、徳之島、沖繩島北部および西表島」、世界自然遺産に登録
 9月1日 奄美市本庁舎の全体供用開始
 10月2日 奄美市市民交流センター落成式
 10月23日 奄美市市制施行15周年記念式典
 10月23日 世界自然遺産登録記念式典・世界自然遺産登録記念祝賀イベント
 10月23日 朝日中学校吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクールで銀賞受賞
 11月12日 九州地区高校野球大会で大島高校が準優勝
 11月14日 奄美市長に安田壮平氏が初当選
 11月27日 島内5市町村で花火同時打ち上げ、夜空に1万発
 11月30日 朝山毅奄美市長が退任
 12月1日 安田壮平奄美市長が初登庁
 12月8日 奄美市議会議長に西公郎氏、副議長に橋口耕太郎氏
 1月6日 新型コロナウイルス警戒レベル5へ引き上げ
 1月28日 大島高校の2度目の甲子園(センバツ)出場決定、一般枠は初
 3月19日 あやまる岬サイクル列車リニューアル
 3月23日 大島高校野球部選抜大会出場
 3月24日 奄美海洋展示館リニューアルオープン
 5月10日 奄美群島市町村議会議員大会3年ぶり開催、奄美市で大島支部消防法大会、奄美市で22年ぶり開催
 6月19日 大島支部消防法大会、奄美市で22年ぶり開催
 7月26日 住用町に世界遺産センターオープン、世界自然遺産登録1周年記念イベント
 8月4日 新型コロナウイルス感染拡大により舟こぎ競争中止
 8月5日 奄美まつり3年ぶりに花火大会、パレード・八月踊りは中止
 9月20日 奄美大島食肉センター新築工事起工式
 10月16日 県民文化フェスタinあまみ2022、奄美群島で初開催
 10月30日 奄美パーク開園20周年
 11月26日 奄美市で全国山羊サミット
 12月5日 大野稼頭央投手(大島高)がプロ野球ソフトバンク入団
 1月11日 JAL(日本航空) 奄美大島―大阪便就航50周年で式典
 1月22日 3年半ぶりに奄美市防災訓練
 2月5日 スポーツイベント「つなGO奄美大島」開催、奄美市地域女性団体連絡協議会名瀬支部結成100周年記念式典、陸上自衛隊奄美駐屯地4周年記念イベント



9月1日から全体供用開始した奄美市本庁舎



くす玉開きで世界自然遺産登録を祝う奄美5市町村長。11月26日、奄美市役所

【2025年】
(令和7年)

5月14日 奄美市と奄美大島ベクト防災の会、「災害時におけるベクト同室避難に関する協定」締結
 5月25、26日 奄美市で11年ぶりに県総合防災訓練実施
 6月24日 奄美市、住用町青久集落「青久の防波壁」を文化財指定
 7月1日 奄美空港でJAL60周年、ピッチ10周年の就航記念行事
 7月4日 奄美市と陸上自衛隊奄美駐屯地、大規模災害時の協定締結
 7月7日 県知事選、塩田康一氏が再選
 7月10日 医療法人徳洲会グループ創設者の徳田虎雄氏が死去
 7月20日 名瀬中央通りアーケード60周年記念祭
 8月1、4日 奄美まつり開催
 8月4日 女子野球W杯で日本優勝、奄美市出身の里綾実選手らが活躍
 9月2日 奄美市名瀬に奄美野生動物医学センター開設
 9月3日 環境省が奄美大島の特定外来生物フイリマングースの根絶宣言
 10月1日 奄美市、「自家用有償旅客運送」サービス開始、住用・筈利で出発式
 10月9日 奄美市、IT関連2企業と立地協定、コウズ(大阪)とフラインゲット(東京)
 10月26日 衆院解散総選挙、鹿児島2区は三反園訓氏が再選
 11月6日 名瀬古見方多目的広場の愛称「グリーンテックフィールド」に、ネーミングライツ事業
 11月7日 奄美市筈利町で奄美群島農業祭、開催は6年ぶり
 11月23日 奄美ナンバー10周年、名瀬で記念イベント
 12月2日 奄美市名瀬の大熊漁港内にシンベイサメ
 12月5日 ユネスコが「伝統的醸造り」を無形文化遺産へ登録決定
 2月1日 プロ野球横浜ベイスターズ、名瀬で優勝パレード
 2月6日 奄美市筈利町の東部浄水場で通水式
 2月8日 奄美小で創立100周年記念式典
 2月22日 奄美版SDGs発表、未来目標に「島らしく」
 2月26日 奄美市世界自然遺産活用P.F.、観光価値創出などで市に提言
 4月12日 奄美市農林産物直売所がリニューアル、新名称は「夢来夢来テラス」
 4月16日 おがみ山トンネルの掘削開始、27年上半期の貫通目指す
 4月20日 名瀬大空襲から80年
 4月22日 宇宿貝塚史跡公園リニューアルオープン
 4月27日 サッカー男子日本代表の森保一監督、安田市長と特別対談
 5月7日 オカヤドカリの違法所持で中国籍の男3人逮捕
 5月17日 住用の観光交流施設「三太郎の里」リニューアル



奄美大島で根絶が宣言されたフイリマングース＝2012年6月



市文化財に指定された青久の防波壁＝10月、奄美市住用町



約4300人が沿道に詰め掛けた優勝パレード＝2月1日、奄美市名瀬

【2019年】
(平成31年)
(令和元年)

7月9日 奄美空港ターミナルビルの増改築工事を完了し記念式典
8月1日 スカイマーク、奄美・鹿児島・名古屋線就航
8月24日 奄美市給食センター開所
9月29、30日 台風24号が奄美群島を暴風域に。建物被害4000棟超、停電は最大8万世帯超える。通信障害や断水も発生
12月25日 日本復帰65周年、奄美市など各地で記念行事
2月1日 政府が「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」の世界自然遺産登録推薦書をユネスコへ再提出
奄美市役所、新庁舎開庁式
2月12日 奄美deアート国際フェスティバル、奄美市の奄美文化センターで
3月29日 改正奄振法成立。13回目の改正、5年間の延長決まる
3月31日 陸上自衛隊の奄美駐屯地（奄美市名瀬大熊）で開設記念行事
元号「令和」に
5月1日 奄美博物館リニューアルオープン
8月24日 ビーチ・アビエーション、奄美―成田線運航開始
10月1日 ユネスコの諮問機関が世界自然遺産候補地の奄美大島で現地調査
奄美市議選、定数は2減の22。現職17人と新人5人が当選
10月9日 「ウエステルダム」名瀬港に初寄港、過去最大の8万2000ト
10月27日 奄美市議会、与勝広議長、奥輝人副議長を選出
12月17日 東京五輪聖火リレー、奄美群島では奄美市名瀬市街地で実施決定



正門を除幕して駐屯地開設を祝う陸自幹部と来賓＝3月31日、奄美市名瀬

【2020年】
(令和2年)

12月26日 ビーチ・アビエーションの奄美―関空線就航
1月6日 奄美市、住民票などコンビニで交付開始、県内離島で初
2月22日 奄美市で危機的言語・方言サミット開幕
3月24日 夏の東京五輪・パラリンピック、1年延期決まる
4月18日 奄美大島5市町村長、コロナ感染拡大に伴う全国の緊急事態宣言（16日）を受け、緊急共同メッセージ。不要不急の来島や旅行、外出自粛要請。以後、コロナ禍、市民文化祭、市民体育祭、奄美まつりなど各市町村の夏祭りや行事中止相次ぐ。航空路の減便も。東京五輪聖火リレー、かごしま国体は延期
9月6日 過去最強とされた台風10号、奄美を暴風域に。「猛烈な勢い」には発達せず
11月2日 奄美・沖縄4島の世界自然遺産登録審査、21年6～7月に中国で開催決定
奄美市、コロナワクチン接種推進室を設置
2月8日 奄美市役所にコロナワクチン保管用の超低温冷凍庫到着
2月16日 県がコロナワクチン医療従事者用優先接種施設発表。接種と保管を担う施設に奄美文化センター
2月26日 東京五輪聖火リレー、奄美市ルート4月27日実施決まる
3月3日 奄美ワクチンセンターとなる奄美文化センターにコロナワクチン届く
3月7日 東日本大震災から10年。奄美各地で黙とう

【2024年】
(令和6年)

2月10日 名瀬小学校創立150周年記念式典
2月25日 ほこらしゃ奄美音楽祭
3月1日 名瀬港本港地区の「名瀬港マリントウン緑地公園」供用開始
3月11日 世界自然遺産登録一周年記念シンポジウム
3月23日 海外客船、3年ぶりに名瀬港に寄港
4月1日 「奄美市景観計画」の運用開始、一定規模の建築物届け出制に
4月7日 毒クワゲ「カツオノカンムリ」が大量漂着
4月25日 「奄美市しまわかんぽう」設立
5月7日 奄美海洋展示館開館25周年セレモニー
5月8日 新型コロナウイルス、感染症法上の「5類」に移行
5月9日 奄美市とリクルートが連携協定、求人情報発信力を強化
5月22日 奄美市、フリーランス全国サミットで特別賞
5月22日 奄美市、内閣府の「SDGs未来都市」に選定
6月1日 健康体験交流施設「タラソ奄美の竜宮」が無期限休館
6月2日 奄美市ネーミングライツ、振興会館「奄美川商ホール」、市民球場「奄美川商球場」に金作原にバイオトイレ整備
6月9日 奄美市職員採用、ネット使い全国各地で一次試験、申し込み開始
7月14日 奄美まつり開催
7月30日 全国高校総合文化祭開幕、名瀬で郷土芸能部門
8月11～12日 奄美まつり開催
8月21日 奄美大島で全国離島交流中学生野球大会開幕
9月24日 国際探検クルーズ船が名瀬に初寄港
10月10日 奄美市名瀬浄化センターでバイオガス発電事業開始セレモニー
10月13日 奄美市でかごしま国体相撲競技
10月22日 奄美市議選、定数22に24人立候補
10月29日 奄美市議選、現職13人、新人9人が当選
11月11日 奄美群島日本復帰70周年記念式典
11月13日 奄美市民体育祭、4年ぶりに開催
11月27日 奄美市議会、奥輝人議長、正野卓矢副議長を選出
11月30日 屋久島沖で米軍オスプレイ墜落
12月25日 奄美群島復帰70周年
1月1日 能登半島地震発生、震度7
1月2日 日航機と海保機が衝突、羽田空港
1月19日 奄美群島を含む「薩南諸島の黒糖製造技術」登録無形民俗文化財に
2月1日 プロ野球横浜DeNAベイスターズがキャンペーン、奄美市で2年連続
2月10日 節田マンカイ、4年ぶり開催
2月22日 奄美群島のタクシー初乗り上限600円に
3月1日 奄美大島食肉センター開所
3月25日 奄美群島12市町村、新たなふるさと納税「旅先納税」導入
3月29日 改正奄振法が成立、5年延長



一体となって六調を歌い踊る出演者と来場者ら＝2月25日、奄美市名瀬



式典前のパフォーマンスで復讐を祝う歌「朝はあけたり」を合唱する名瀬市民合唱団と奄美市少年少女合唱団＝11月11日、奄美市名瀬

【2026年】
(令和8年)

5月26日 奄美群島広域事務組合と尼崎市、「奄美×尼崎 A M A フレンドシップ事業」締結
7月20日 参院選鹿児島選挙区、尾辻明実氏が初当選
7月31～8月3日 奄美まつり開催
8月6～7日 中野洋昌国土交通相が奄美大島視察
8月8日 しまバス、「やんご終電バス」運行開始
8月15日 終戦80年、名瀬で戦没者合同慰霊祭
8月24日 奄美市総合防災訓練を実施
8月29日 奄美市市制20周年で各支所に懸垂幕・横断幕設置
9月13日 第1回アジア国際ウナギシンポジウム、名瀬で開催
奄美市長のふれあい対話、東京で初開催
9月20日 奄美市と栃木市、「文化・経済交流に関する協定」結ぶ
奄美豪雨から15年
10月10日 第104代首相に高市早苗氏、初の女性
10月20日 対話ワークショップ「奄美市議会議員と語る会」開催
10月21日 日本民族学会、名瀬で奄美初の年会開催
11月1日 現職の安田壮平奄美市長、無投票再選
11月9日 本場奄美大島袖伝統工芸士会、設立50周年記念式典
11月29日 引退するにつぼん丸、名瀬港に最後の寄港
12月2日 奄美群島12市町村長、国内外7地区の奄美会と意見交換
12月3日 住用の市中学校が4月から休校へ
1月12日 奄美市とBRJ、次世代モビリティ導入で連携協定
1月13日 奄美市、デジタル機器再生活用でソフマップなどと協定
1月19日 世界自然遺産活用PF（公民連携会議）、提言書を市に提出
1月20日 大相撲、奄美市出身の福岡改め藤天晴が十両昇進
1月30日 藤天晴が奄美市役所を表敬訪問
1月28日 名瀬港新旅客ターミナル完成、26年度中の供用開始へ
1月28日 鹿児島大、奄美大島に28年度キヤンパス設置へ、学生が中・長期滞在中で活動
2月6日 奄美市と群馬県みなかみ町、教育・経済交流に関する協定締結
2月6日 衆院解散総選挙、鹿児島2区は三反園訓氏が3選
2月7日 奄美市地域情報化計画策定委、DX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画案を策定
2月8日 奄美市、26年度当初予算案発表。市税が過去最高に
2月16日 車両のレッカー移動で市内2社と協定、災害時の交通確保を支援
2月18日 奄美市市制施行20周年
2月19日 奄美市市制施行20周年
3月20日 奄美市市制施行20周年



市制施行20周年を祝う懸垂幕＝8月29日、奄美市役所



平藤進を安田壮平市長らに報告する藤天晴＝1月30日、奄美市役所



奄美市と群馬県みなかみ町での交流協定締結式に臨んだ両自治体関係者＝2月7日、みなかみ町

名瀬小学校

(児童数315人)



本校は1872(明治5)年11月に名瀬郷校として開校し、今年度で153周年を迎えます。学校の特徴として、米軍統治下時代の日本復帰運動と深い関係があることが挙げられます。特に運動の中心となった石段は市の指定文化財として当時のまま残され、写真と見比べながら当時の熱気に思いをはせることができます。

今、この石段をきれいにする子供たちや石段に立ち日本復帰の歌や校歌を歌う子供たちを見ることができます。また創立140周年の時に制定された校訓「石段に学ぶ 正しい心

素直な心 強い心」のもと、子供たちは勉強や運動に頑張っています。

◇ 中村勝校長 ◇

毎年、開校記念日となっている11月22日前後に、本校では開校記念集会を開いています。この日に向けて昔の写真を見たり、資料を調べたりすると、いろいろな発見があることもあります。復帰当時を振り返るとともに、校訓を大切に、子供たちと一緒に頑張ります。

◇ ◇

◇ 池田昌弘校長 ◇

2024(令和6)年度に創立100周年を迎えた本校は、校訓の「強く 正しく 最後まで」のもと、これまで2万1759人の卒業生を輩出しています。児童数はピーク時の1958(昭和33)年には2834人に上り、県内でも有数のマンモス校でした。近年は児童数は減少していますが、児童一人一人が故郷への愛着と誇りをもちながら歴史と伝統を守っています。

◇ ◇

◇ 久田武明校長 ◇

本校の校章は、伊津部の子らが名瀬湾頭から万波を乗り越えて世界へ雄飛する希望の象徴と、伊津部校区の総親和を表現しています。校章に込められた願いのように、本校を巣立つ子らが、これからも故郷に誇りをもち、そして愛し、この奄美大島で、日本で、世界で活躍する人になってほしいと強く願っています。

各学年が工夫して特色ある活動に取り組んでいます。

◇ ◇

◇ 藤崎博隆校長 ◇

人のつながりが強く、誰の子供でも関わって育ててくれる朝日校区。奄美市最大規模の児童数ながら、このよき雰囲気が残る地域の中で「大志」の校訓が示す、世界の平和に貢献し、人類に奉仕する人へと育ち、未来へと羽ばたいていくことを願っています。

◇ ◇

◇ 岩戸修二校長 ◇

温かい保護者と学校に協力的な地域の方々、意欲あふれる職員、そして緑豊かな自然に囲まれて、明るく元気な小宿っ子が、すくすくと育てている学校です。2027(令和9)年度に創立150周年を迎えます。先輩方から引き継いできた歴史と伝統を大切にしながら、未来に向けて新たな小宿小を築いていきます！

しています。

◇ ◇

◇ 上加世田栄次校長 ◇

地域の皆さんはお互いを知る環境にあり、人の良さ、温かさを非常に感じます。子供たちを地域で大事に育てると意識が強く、学校行事にも積極的に参加してくださいませ。子供は特認校制度や、奄美くろうさぎ留学で友だちが増えることを楽しみにしています。小規模校ならではのアットホームな学校生活を送っています。

りや舟こぎ、十五夜行事などが有名です。

◇ ◇

◇ 池野吉寿校長 ◇

海や山、川などの自然に囲まれたのどかで豊かな環境で、子供たちは元気に活動しています。自分らしさを表現するのは得意ではありませんが、新しい風に吹かれながらももっと自分のよさを発見してほしいと思っています。皆さん、こんな小湊小で一緒に学んでみませんか。みんなが主役です。

奄美小学校

(児童数311人)



本校は1925(大正14)年に名瀬尋常小学校として設立され、大島郡名瀬町奄美国民学校を経て1948(昭和23)年に「奄美小学校」と改称されました。名瀬小学校からの分離、伊津部小学校新設のための校区変更、戦争による校舎全焼などを経る中で絶えず新校魂を胸に刻みながら、校庭拡張など地域の方々の熱い思いに支えられて発展してきました。泉芳朗先生作詞の校歌には、配田ヶ丘や久里町、新川のせせらぎも織り込まれ卒業生や地域の方々に親しまれています。今後も郷土を愛す子供たちと共に学びを続けていきます。

伊津部小学校

(児童数182人)



本校は、1959(昭和34)年に名瀬市立伊津部小学校として、名瀬中学校の移転と名瀬市の人口増大により市内3番目の小学校として唐浜地区に創設されました。唐浜地区の傾斜地7段に校庭・校舎が建築されています。眼前に波静かな名瀬港、岬のある赤崎、湾内の立神、そして後方に広がる東シナ海を眺望することができます。校訓は多くの卒業生や地域の方々から親しまれている「やるならやるでしゃんとやれ」です。この校訓に基づく具体的な行動が日常に根付くよう、校訓を合言葉にした教育活動の展開を大切にしています。

朝日小学校

(児童数617人)



本校は創立147年の長い歴史があり、奄美市では最大規模の学校です。「夢を抱き、心身ともに健康で、豊かな心と確かな学力を身に付けた光輝く朝日っ子を育成する」の学校教育目標、「大志」の校訓のもと、元気いっぱい笑顔の絶えない学校づくりに励んでいます。本校区では地域の伝統文化を引き継ぐために、八月踊りや輪内音頭などを地域の先輩から学び、運動会、市音楽発表会や「かごしまの教育」県民週間などで発表しています。また、全校児童が参加する希望号藍丸集会や5年生の年の祝など、本校独自の行事もあり、

小宿小学校

(児童数351人)



本校区は東シナ海の海岸線に面し、朝仁・朝仁町・朝仁新町・小宿・里・平松・浜里・宮久田・千年松の7町9自治会よりなっています。市の都市計画による都市化が進み、名瀬市のベッドタウンとして発展してきました。小宿湾を埋め立ててできた浜里団地や平松団地には県営・共済・市営・国家公務員宿舎等の住宅が建設され、さらに個人住宅も次々に建てられるなど、当時急激な人口増加が見られました。児童数は1992(平成4)年には1000人を超すまでになりましたが、ここ数年は350~380人程度で推移しています。

知根小学校

(児童数15人)



本校は1958(昭和33)年4月に知名瀬小学校と根瀬部小学校との統合によって創立され、今年度は創立68年目を迎えます。前方は東シナ海に面し、後方を山に囲まれ、静かで自然豊かな教育環境に恵まれた立地条件にあります。児童数は年々減少傾向にあり、2024(令和6)年から特認校制度を導入し、完全複式の2学級編制となっています。特色ある教育活動では、伝統芸能の島唄や三味線、八月踊りを地域住民から学んでいます。自然体験活動も充実しており、PTA主催の遠泳大会やシーカヤック体験も子供たちが楽しみに

小湊小学校

(児童数13人)



奄美市内で最も古く歴史のある学校で、校区内にはフワガネク遺跡があります。また道路を挟んで奄美看護福祉専門学校があり、学生による読み聞かせや学生祭への参加、運動会でのサポートなど、さまざまな行事を通して協力体制が整っています。児童数は1966(昭和41)年の228人をピークに、1989(平成元)年には66人、2019(令和元)年には18人となりました。2024年度には一時、7人まで減少しましたが、同年度からの特認校制度の開始に伴い、2025年度は3人の特認校生を受け入れました。地域と連携した行事も多く、米作

住用小学校

(児童数15人)



1967（昭和42）年に住用小・中学校から独立し、本校が誕生しました。校区には、日本で2番目に大きいマングローブの群生林があります。本校は「地域とともに歩む学校づくり」をテーマに掲げ、自然体験や伝統文化を教育活動に取り入れています。自然体験ではマングローブをカヌーで周遊しながら、植物や干潟のカニを観察します。他にもリュウキュウアユの保護活動を行っています。伝統文化では各集落の八月踊りや島唄・竿踊りなど地域で受け継がれてきた文化を体験していま

す。これからもふるさとへの誇りを持ち続ける取り組みを進めていきます。

◇ 福本淳一校長 ◇

市町村合併で奄美市が誕生した当初の本校の児童数は67人でしたが、この20年で児童数が減少している状況です。少人数ではありますが、「地域に根ざしたふるさと教育」の基本方針のもと、教児一体となり特色ある教育活動を進めております。

赤木名小学校

(児童数80人)



本校は1878（明治11）年9月、中金久尋常小学校として創立されました。本校区は笠利町の中央に位置し、政治・経済・文化の中心となってきました。ここ数年は「子供たちが行きたくなる笑顔あふれる魅力ある学校」を目指し、一人一人の生命や個性・人権を尊重し、主体的に学び、自己有用感を育くみ、奄美のことを知り、誇りに思う子供の育成に努めています。特に郷土教育を地域・家庭と協力しながら推進し、八月踊りやチヂン等に慣れ親しみ、自ら楽しんだり、披露したりすることで称賛や達成感を感じ自己有用感を高め

る機会ともなっています。

◇ 中島朋子校長 ◇

子供たちにもさまざまな悩みや悲しみ、苦しみがありません。それでも、誰かを支えに乗り越えよう…と、明るい明日を生きよう…としています。本校で育った子供たちが多様な他者とつながりながら、明るい未来、これからの奄美を盛り上げる人へと成長していくことを楽しみにしています。

笠利小学校

(児童数55人)



奄美大島北端に位置する本校は、1878（明治11）年の創立以来、戦災による校舎焼失や制度改編、新校舎落成など多くの節目を乗り越え147年の歴史を重ねてきました。校訓は「はつらつ・好学・明朗」。地域文化を尊重し、島唄や八月踊り、三線、島口の継承が特色です。近年では、かごしま国体の地方事情御視察で承子女王殿下の前で島唄を披露する機会もありました。海岸清掃など自然体験も盛んで、温かい地域性に支えられ「花と島唄につつまれて夢をはぐくむ笠利校」を目指しています。

◇ 日高裕二校長 ◇

アダンの木と砂浜、奄美ブルーの海、サトウキビや島バナナの畑、アカショウビン、ルリカケスなどの希少種、運動会で八月踊り、卒業式で奄美三線と島唄で卒業生を送ります。円形に配置された校舎、芝生の中庭に明るい声、健やかな体と仲間づくりができる笠利小学校です。

節田小学校

(児童数34人)



本校の正門前では、誰に見られるでもなく一礼する人の姿があります。創立146年、地域に根ざした伝統ある学校です。「太鼓と読書と奉仕の心を育む節田小」を掲げ、読書活動では感性と想像力を育み、奉仕活動では異学年が協力し、人の役に立つ喜びを体感し学んでいます。太鼓は「アマンディー太鼓」と呼び、奄美の神々が降り立たとされる節田の丘「アマンディー」に由来し、代々受け継がれてきた音には魂が込められています。子供たちの真剣な眼差しとともに、地域の誇り

と郷土愛をこれからも響かせていきます。

◇ 長濱なつみ校長 ◇

節田の地に培われた伝統を未来へつなぐ者として、アマンディー太鼓の音が人々の魂を揺さぶるように、私自身も魂を込めて子供たちと向き合い、保護者・地域と共に歩み、力を尽くしていきたい。日々、まい進していく姿は、きっとアマンディーの山頂にまで届くと信じ…。

緑が丘小学校

(児童数18人)



創立63周年を迎える本校は、旧用安小学校と旧喜瀬小学校が1963（昭和38）年4月1日に学校統合し創立されました。行政区画は用安、喜瀬1～3区の4地区に分かれています。創立当時は235人だった児童数も近年は著しく減少しています。極小規模校ではありませんが、複式のよさを生かした教育や、豊かな自然環境を生かした特色ある自然・農業体験や島唄・島唄・八月踊りの伝承活動は今も継続されています。地域一体となって、ふる

さとに愛着と誇りをもった心豊かな緑っ子の育成を目指しています。

◇ 飯牟禮実史校長 ◇

緑が丘小学校は豊かな自然と地域の絆に支えられ、開校以来歴史を重ねてきました。自然体験や郷土学習を通して子供たちの学びと心を育み、未来を切り開く力を育てていきます。

宇宿小学校

(児童数28人)



創立146周年を迎える本校は、先人の営みを今に伝える遺跡に囲まれた花と読書の学校です。小規模校として、一人一人の顔が見える温かな学び舎で、学年を越えて支え合いながら学校生活を送っています。県総合教育センター研究提携校として20余年、複式学級における学習指導の在り方を研究し、子供同士が学び合い、自ら考え行動する力を育ててきました。校訓「かしこく やさしく たくま

しく」のもと、島の誇りを胸に、きらり輝く宇宿っ子の育成に取り組んでいます。

◇ 久留龍二校長 ◇

宇宿小学校の子供たちは、豊かな自然と温かな地域の支えの中で、ふるさと奄美への誇りを育てています。これからも地域と共に、未来を担う「キラリ輝く宇宿っ子」を育ててまいります。

手花部小学校

(児童数15人)



本校は1879（明治12）年に手花部下等小学校として創立され、今年度で146周年を迎えます。本校区は手花部湾が目の前に広がる一方、国道沿いの山々にも囲まれ、自然豊かな校区です。完全複式の3学級で、近年は過疎・高齢化が進んでいますが、I・Uターンの方々も少なくありません。少人数ですが、素直で明るい子供たちばかりです。本校の学校自慢は「花いっぱいマリンスポーツのできる学校」です。シーカヤック・サップ・ウインドサーフィンなど手花部湾のきれいな砂浜が続く奄美の海を利用した自然体験活動には

申し分のない環境といえます。

◇ 黒木祐二校長 ◇

極少人数の学校ですが、地域・保護者の方々の校区を愛する熱量は非常に高く、さまざまな行事に全ての手花部校区の方々が密に関わってくださるので非常にうれしく、ありがたく思っています。今後も保護者の方々と共に生き、助け合いながら、大切な子供たちを育てていくかじ取り役を全うしていきたいと考えています。

屋仁小学校 (児童数13人)



本校は少人数の複式の学校です。毎朝（日曜を除く）6時半のラジオ体操からスタートします。これは40年以上前から続いており、地域の方々も一緒に参加しています。「特色ある学校づくり」では、学習においては「極少人数での学習者主体の授業」を目指し、自分たちで協働して学び合いを深めています。また、本校には宿題がありません。家庭では自己選択、自己決定をしたものを進める「家庭学習」を行っています。その他に月2回の

「まーじんゆらおうでー」（地域の方から教わっている三味線、八月踊り、島唄）もあり、屋仁に伝わる伝統を継承しています。

日置ゆかり校長

元気いっぱい素直な子供たちです。力を合わせてやり遂げるパワーを持っています。一人一人が奄美の「スットゴレ精神」を持ち、諦めずに果敢にチャレンジしてほしいです。

佐仁小学校 (児童数11人)



奄美の最北端に位置する創立146年の本校では「蝶と太鼓と読書の佐仁小」のキャッチフレーズのもと、子供たちが集落の皆さんに愛情をいっぱいかけてもらい、生き生きとたくましく学んでいます。20年以上前から脈々と受け継がれている日本最大の蝶「オオゴマダラ」の飼育や「佐仁太鼓」、特色ある読書活動も、子供たちは誇りをもって取り組んでいます。また、多くの集落の方がシマグチ・島唄・三線、昔遊びや黒糖作り等の継承活動

で、シマの伝統文化を大切にすることを子供たちに伝えてくれています。

根釜文字子校長

佐仁っ子たちは豊かな自然と多くの人々の温かい懐に抱かれてすくすくと成長します。また、職員も激動の社会情勢の中、この恵まれた地で教育活動ができる幸せをかみしめながら日々奮闘しています。今後ともどうぞよろしく願います。

名瀬中学校 (生徒数176人)



本校の近くには県立奄美図書館、県立大島病院、県立高校2校、小学校1校があり、教育環境が整った校区に立地した学校です。そのような環境の中で生徒たちは日々運動や学習に精いっぱい取り組んでいます。特に大きな行事である体育大会や文化祭では生徒たちがその団結力を発揮し、毎年大きな盛り上がりを見せています。また、保護者や地域の方々も協力的で、学校・家庭・地域が一体となって生徒たちの健全育成のために日々取り組んでいます。

中熊一仁校長

本校の生徒は、校区の8地区から徒歩で通学しており、純朴で素直であり優しく思いやりの心を持っています。「向学」「信頼」「克己」の校訓のもと「あいさつ日本一の学校」をキャッチフレーズに毎朝、元気で気持ちのよいあいさつとともに充実した学校生活がスタートします。

金久中学校 (生徒数239人)



本校は1955（昭和30）年9月に名瀬中学校で開校式（1年生307人）が挙行されスタートしました。生徒数は1956年の1457人（31学級）をピークに減少していますが、卒業生組織である真潮会に支えられ、「子どもをど真ん中に置く学校」をスローガンにさまざまなことにチャレンジしています。2025年度には、新制服の導入や地域を学習の場にした探究学習の推進、千葉県芝山町立芝山中学校との交流を通じた修学旅行を実施しています。また、名瀬港に近い立地を生かした大型観光船との交流や武蔵野芸術大学生との交流事業を通し

て学びの深まり、広がりにもチャレンジしています。

当田進一校長

奄美市の誕生に伴い本校も名瀬市立金久中学校から奄美市立金久中学校になり、20周年を迎えることとなります。これまで以上に奄美市の自然や歴史、文化、産業、人を誇りに思い、これからの奄美市や社会を盛り上げる人材育成を目指し、奄美市行政や地域の方々の協力をいただきながら教育活動を実践していきます。

朝日中学校 (生徒数313人)



本校は奄美群島で1番生徒数の多い中学校です。学校の歴史は、1948（昭和23）年4月に三方村立第一中学校と命名、小学校と併設され、その後1955（昭和30）年2月に名瀬市と三方村の合併により名瀬市立朝日中学校と改名、2006（平成18）年3月に奄美市立朝日中学校と改名し現在に至ります。本校は広い校庭と1993（平成5）年に完成したスカイブルーの3階建て校舎が印象的です。生徒は素直で明るく礼儀正しく、部活動や同好会は15団体あり、それぞれに目標をもって心技体の充実・発展のために鋭意努力を重ね、毎年、

県大会以上の大会に出場しています。

埜中勝実校長

奄美群島で最大規模を誇る本校は、落ち着いた学習環境の中で生徒一人ひとりが、それぞれの目標に向かって日々努力しています。朝日中学校の学校自慢は、このサイズでは語り尽くせないほどありますので、ぜひ一度、お気軽に校長室まで足を運んでいただければと思います。

小宿中学校 (生徒数166人)



本校区は奄美市名瀬の南西部に位置し、小宿小学校と知根小学校2校から進学してきます。校区には奄美少年自然の家、名瀬運動公園、大浜海浜公園などの公共機関・施設等や病院などもあります。豊年祭など地域行事も盛んで、奄美の伝統文化を大事にしています。また、「南島雑話」の著書である名越佐源太の謫居跡もある歴史の薫り漂う校区です。校訓は「向学・友愛・錬磨」。生徒会を中心に「向学・集中・クリーンアップの小宿中」をキャッチフレーズに学習や部活動、ボランティア活動等に取り組んでいます。

川井功作校長

奄美市誕生から20年の中で勤務校が住用中、東城小中、そして現在小宿中と奄美市に大変お世話になっております。住用中では水害に遭い、学校に2日間泊まるという事態、東城校では新型コロナウイルスの影響で行事等の縮小や中止等があり今思うととても感慨深いものがありますが、これからも奄美市に貢献できるよう、そして地域に根ざしたふるさと教育、あまみの子供たちを光にできるよう取り組んでまいります。

住用中学校 (生徒数5人)



本校は1948（昭和23）年4月に住用村立住用中学校として開校され、2025年度で77年を迎えました。名瀬市街と古仁屋のほぼ中間地点の国道58号線沿いに位置し、近くにはリュウキュウアユがいる住用川と役勝川が流れ、その合流地点にはマングローブが群生し、奄美大島の環境文化の中心であります。2010（平成22）年10月の奄美豪雨では甚大な被害を受けましたが、2021年に世界自然遺産に登録された生物多様性で豊かな自然と共存する地域から、1640人ももの有為な人材を輩出しています。

中尾奨校長

本校は四つの校訓「好学・自律・根性・協同」を目指す生徒像と示し、極小規模校ならではの個別最適な学びや生徒一人一人への目配り・気配り・心配りを実践しています。学校教育目標を「未来を拓くために学び続ける生徒の育成」と掲げて、将来社会で自立する力と生きる力を持った生徒の育成に全職員で取り組んでいます。

赤木名中学校 (生徒数112人)



本校は奄美大島北部に位置し、校区は笠利町内の4分の3に当たる約40平方キロメートルの広い地域にまたがり、笠利町8小学校のうち6小学校区から成り立っています。

学校所在の赤木名には、市役所の笠利総合支所や大島北高校があるほか、国・県の出先機関があり、教育環境にも恵まれています。また文化財も多く、伝統文化の継承も盛んです。勉強だけでなく部活動も盛んで、野球や男女バレーボール、女子ソフトテニス、吹奏楽の部活動のほか、相撲や水泳などのクラブもあり、

県大会や九州大会などに出場するなど、文武両道を目指しています。

肥後孝幸校長

本校は「魅力ある学校づくり」を目指し、生徒会主体の行事に取り組んでいます。「学校が楽しい」と答える生徒は全国の平均と比べてもずば抜けて高く、また、全国体力・運動能力調査においても全項目で全国平均を上回っています。生徒たちは温かい地域に見守られながら、伸び伸びと成長しています。

笠利中学校 (生徒数29人)



本校区は奄美大島北部に位置し、サトウキビ畑をはじめとする広い農地と太平洋に面した美しい海岸線を有し、笠利、佐仁両小学校区で構成されています。本校は1948(昭和23)年に笠利村立第二中学校として創立され、本年度で78周年を迎えました。小規模校の良さを生かしたさまざまな取り組みを行っています。特に郷土教育には力を入れており、島唄が盛んな地の利を生かして、島唄や島口、八月踊りを教育課程に盛り込み、また、地域の人材活用で講演会を開いたり郷土料理教室も実施し、生徒の地域愛を育む幅広い教育活動

を展開しています。

淵脇哲也校長

大笠利の高台に位置する本校は、飛行機からも白亜の校舎が見て取れます。2020(令和2)年度末に新校舎の落成を迎え、市内では最も新しい学び舎で生徒たちは日々勉学に励んでいます。窓からは太平洋が一望でき、美しい奄美の海や日の出、時にはクジラも見ることが出来るオーシャンビュースクールです。恵まれた環境の中で、今後も思春期の生徒の健全育成に尽力してまいります。

大川小中学校 (児童数22人、生徒数14人)



本校は大川小学校と大川中学校の小中併設校です。1963(昭和38)年に現在の校名になりました。奄美市街地から約8キロの自然豊かな地域で、学校の敷地内では、いろいろな野鳥を見ることが出来ます。小学校、中学校が合同で行う文化祭や運動会、島唄・シマグチ学習では、小学生と中学生と一緒に活動しています。

西田昌史校長

大川小学校では、学校敷地内にある田んぼを使って黒米栽培を行っています。今年は、収穫量が多く、たくさんの方々から子供たちが育てた黒米を味わっていただくことができました。大川中学校では、毎年12月に校区一周駅伝大会を実施しています。生徒一人一人がチームのために懸命に走り、タスキをつないでいます。

崎原小中学校 (児童数15人、生徒数17人)



本校は奄美市名瀬市街地の南東にあり、ループ橋から約10キロ、車で20分、162メートルの高台にある太平洋と喜界島を一望できる場所に位置しています。児童生徒の約7割が他校区から特認バスや送迎で通学する小中併設特認校です。豊かな自然の中で渡り鳥のサシバの観察や炭づくり活動、自然観察や体験など、地域の特色を生かした教育活動を行っています。

崎原地域は高齢化・過疎化が進んでいますが、「子供は地域の宝」として学校教育への関心が高く、全世帯が学校のPTA会員とな

り、学校行事をはじめとするさまざまな教育活動に協力し、子供たちを温かく見守ってくれています。

宮村雄一郎校長

地域と共にある本校が、今後も子供たちの声が響き渡る中で保護者・地域の方々と協力した教育活動を継続していきたいと考えています。特認校に興味がある方は、常時、見学等可能です。ここ崎原で、いっしょに学びませんか！

芦花部小中学校 (児童数25人、生徒数12人)



東シナ海と緑深い山々に囲まれた本校は、芦花部と有良の2集落からなる自然豊かな学校です。「小規模校入学特別認可制度」の指定を受けているため、スクールバスで校区外から通学することも可能です。

本校の特色は、少人数制を生かしたきめ細やかな指導と、地域と一体になった体験学習にあります。伝統漁法「追い込み漁」や稲作、島唄などの特色ある教育活動を通して豊かな人間性を育てています。この恵まれた環境と地域の温かい支援のもと、子供たちは伸び伸びと学んでいます。

有川直美校長

本校は1878(明治11)年に創立し、長きにわたる奄美の豊かな自然と地域の皆さまの温かな情操に育まれ、子供たちは素直にたくましく成長しています。校庭のアカギの木も、変わらず子供たちを見守っています。市制20周年を機に、さらに結いの精神を胸にし、子供たちの笑顔があふれる学校づくりにまい進してまいります。

東城小中学校 (児童数15人、生徒数7人)



本校は1876(明治9)年に川内小学校として開設以来、来年度で創立150周年を迎えます。児童生徒22人は、一人ひとりが豊かな感性をもち、個性あふれる子供たちです。今年度は「形は心」というキャッチフレーズのもと、これまでの八月踊りの継承活動や運動会での六調体操の披露に加え、新たに学校近くの老人福祉施設への訪問活動、「みんなの森づくり県民税関係事業」によるシイタケ栽培などにも取り組んでいます。これらの活動を通して、思いやりのある、心豊かな児童生徒の育成に努めてまいります。

笠井マリ子校長

花いっぱい・歌声響く東城小中学校で、心豊かな児童生徒の指導ができるのは、保護者・地域の皆さまと奄美市の各行政機関のご協力があるとのこと心から感謝しています。ふるさとを愛し、誇りに思い、たくましく生きる力をもち、自ら考え行動することができる児童生徒の育成に努めます。

市小中学校 (生徒数1人、小学校は2024年度から休校)



住用町の南東部に位置し、住用湾の入り口に面した市集落にある本校は、1875(明治8)年に市簡易小学校として開校。住用中学校市分校を経て1952(昭和27)年に住用村立市小中学校となりました。多い時には100人近くいた児童生徒も奄美市立市小中学校となった頃には10人前後となり、2024(令和6)年度には市小学校は休校となりましたが、2025年に市校創立150年を迎えることができました。浜おれや豊年祭などの地域行事や、学校と集落が合同で行う体育大会や文化祭など、集落

と一緒に充実した教育活動を行っています。

木場敏朗校長

今年度は市集落に学校が設立されてから150年を迎える節目の年です。そのような記念すべき年に市小中学校で働けることを職員一同、心から誇らしく思っています。生徒も1人となりましたが、市小中学校の最後の主人公として日々、最高に輝く市ページをつづっているとこです。

挑む 基幹産業支える情熱

奄美大島の基幹作物であるサトウキビ産業を下支えしているのが、笠利町節田の農業生産法人「立神Works」だ。生まれも育ちも節田の榮完治さん（65）を代表とする家族経営の法人で、2024年度の生産実績は約2200ト。25年度は2500トを見込むなど、奄美群島のキビ産業をけん引している。大規模経営実現の背景には、植え付けから収穫まですべて機械で行う「機械化一貫体系」に加え、古里の産業を誇りとする榮さん家族の「サトウキビ愛」がある。



親子で農業法人を営む榮完治さん（左から2人目）と息子ら

キビ大規模経営 笠利町節田の榮さん一家

■生産実績2千ト超

榮家は完治さんの父・茂市さんの代からのキビ農家。完治さんは大工との兼業でキビ作を始め、離農者の畑を借りるなどして徐々に栽培面積を拡大した。

さらに長男の力夫さん（43）、次男の純市郎さん（41）、三男の一樹さん（40）の息子3人が順次、キビ作に加わったことで生産力が向上し、16年産で奄美大島初の1千ト農家となった。

法人設立は21年。23年度実績は2055トで念願の2千トを突破し、名実ともに島の基幹農家に。高齢などを理由に離農する農家から畑の管理を頼まれることで栽培面積を確保しているが、「条件のいい畑だけを借りるのではなく、すべての畑を借りる」（力夫さん）。地域に根差す法人として、そつ心掛けている。

■機械化一貫体系

大規模経営を可能とする取り組みの一つが植え付け、防除、除草、管理、収穫すべての作業での機



キビ畑を眺める榮力夫さん＝2月3日、笠利町

■「いつか見返したい」

榮家の長男、力夫さんは大島北高卒業後、一度は島を離れたが、結婚を機に23歳でUターン。「子育てするなら自然豊かな

械導入だ。現在法人で所有している機械はトラクターや、キビの植え付けに使うビレットプランター、収穫機械のハーベスターなど約30台。ハーベスターはこれまで小型3台を保有していたが、今年1月に中型を1台新たに導入。作業効率がさらに上がり、新たな目標の「生産量3千ト」も現実味を帯びる。

子どもの頃からキビ作を手伝い、父親の背中を見ながら育った力夫さんにとって、キビ農家としての就農は自然なことだった。

法人で中心的役割を担い、現在は奄美市さとうきび部会の会長も務める力夫さんだが、最初からキビ作りに熱心だったわけではない。

就農して間もない頃、農家間の交流の場で「笠利で400ト農家」と胸を張ったら鼻で笑われ、人生で初めて悔し涙を流した。「いつか見返したい」。そのことが力夫さ

んの心に火を付けた。

■目標は「もうかる産業」

法人として「生産量3千ト」を目指しているが、「本当の目標は別にある」と力夫さん。「キビ産業の存続と、もうかるキビ産業の実現」。それが至上命題だ。

一次産業の中でも特に高齢化が著しいサトウキビ。「島を守る基幹産業」「振興のためなら何だってやる」。キビを語り出すと、力夫さんの言葉は熱を帯びる。

「キビ産業を守るためには」。力夫さんが出した答えは「自分たちが楽しみながらキビを作り、

稼ぐ。そして、それを若い人たちにも伝えていくこと」

「計画的な植え付けや、しっかりとした管理をすれば、意外と自分の時間がキビの仕事」と語る力夫さん。「キビ農家」ではなく「自由業」を自称し、周囲にもそう伝えてキビ作の魅力アピールしている。

ただ実際は仕事でうまくいかないこともある。「気持ち折れそうな時はキビ畑を眺める。キビは台風で倒れても必ず上を向くだろ」。担い手の熱い思いが、島の基幹産業を支えている。



今年1月、新たに導入した中型ハーベスター＝2月3日、笠利町

挑む

オレンジロードの復活目指す

住用町の元井農園の4代目、元井雄太郎さん(40)は、かつて町内にあった「オレンジロード」の復活を目標に掲げ、果樹振興による地域活性化に意欲を見せている。

住用町の果樹農家

元井雄太郎さん

元井農園は1940年、製材関係の仕事をしてきた曾祖父の綱信さん(69)の代にタンカンが垂水地区から「ポンカン」の苗木を取り寄せて栽培したのが始まり。祖父の信一郎さんの代にポンカンとオレンジ類の自然交配によって誕生した



タンカンの収穫に取り組む元井雄太郎さん
=1月31日、名瀬

約1畝。インターネットなどによる個販(個別販売)が中心。2024年に法人化し父・孝信さんが社長、長男の雄太郎さんは役員を務める。

10年の奄美豪雨災害では、低い土地にあったポンカン園が水没し全滅するという大きな試練に直面した。代々守ってきたポンカンの木を全て伐採し、災害で出た土砂を畑に2〜6畝盛り土して津之輝に植え替えることで

園の危機を乗り越えた。雄太郎さんが果樹栽培に本格的に取り組んだのは20代前半から、下草の処理や剪定、摘果、収穫

まで年間を通じた作業を体験し「大切に育てた果樹を収穫する喜びを実感し、農業の面白さを知った」。また、住用町や勝地区の青壮年団活動に参加し、「ふるさとを盛り上げたい」と強く思うようになったという。雄太郎さんの現在の目標は「オレンジロード」の復活。「住用の国道沿いにはかつて、タンカンがたわわに実り、オレンジロードと呼ばれていた。近年は高齢化などで廃園する農家が増え、その光景は消えてしまったが、果樹栽培を拡大し、もう一度復活させたい。

本の大形店進出などが影響し、現在は約2万5千羽を飼育。養鶏場の周囲に広がる約10畝の畑でサトウキビも栽培している。利郎さんは「人口減少や本土資本の進出などで養鶏業は厳しい環境にあるが、自然に近い環境で鶏を育て、おいしい卵と鶏肉を地元で提供して奄美の食文化を守っていききたい」。和利さんも「直売所で鶏飯用の卵と鶏肉を買い求めるお客さんが増えている。飼育法にこだわった独自の卵と鶏肉を地域ブランドとして生産していきたい。スイーツ類も素材を生かした奄美ならではの商品作りを進めていきたい」と熱く語った。

挑む

養鶏から6次産業化へ

養鶏業からスタートし、郷土料理「鶏飯」用の鶏肉や、卵を使ったスイーツなどの加工品の販売まで手掛ける笠利町の南利郎さん(78)、和利さん(50)親子。生産から加工、販売までを一体化した6次産業化を展開し、奄美の食文化を支えている。

笠利町

ロールケーキなどのスイーツも開発し、地元住民だけでなく観光客にも人気。

気の店となっている。同年には、奄美の食文化を支える6次産業化の取り組みが評価され、全国農業コンクールで農林水産大臣賞も受賞した。養鶏場ではピーク時に3万羽以上を飼っていたが、人口減少や本土資

みなみくんの卵 南利郎さん、和利さん親子

養鶏業は1966年、利郎さんが18歳の時に約400羽から始めた。採卵能力が高く、鶏飯のスープや鶏肉にも適した品種を選定し、飼育も土着菌などを配合した飼料や自然に近い環境にするため養鶏場に自然光を取り入れるなど工夫を重ね、弾力と甘味のある高品質の卵と、おいしいだしが出る鶏肉を生産して

いる。2代目の和利さんが2002年から本格的に家業を手伝うようになり、規模を拡大。09年に株式会社「みなみくんの卵」として法人化し、利郎さんは会長、和利さんは社長を務める。

11年には龍郷町に直売店「こっこ家」をオープン。評判の卵を使ったシュークリームやプリン、



6次産業化で奄美の食文化を支える南さん親子
=1月27日、笠利町

挑む 大島紬に無限の可能性

「伝統を分解して見直してみたら、無限の可能性が広がっていることに気付いたんです」。そう語るのは、名瀬有屋町で本場奄美大島紬の製造と加工品の企画販売を行う「はじめ商事」社長の元允謙さん(44)。1300年という長い歴史を持つ伝統工芸の価値を尊重しつつも、着物の枠にとらわれず、アパレル、インテリア、異業種とのコラボへと広げてきた紬業界の新潮流の担い手だ。

■転機は21歳の夏

はじめ商事は1982年、元さんの祖父で紬の立。元さんは名瀬で生まれ、84年に福岡県に支店



オリジナル商品を販売している、はじめ商事の工房＝1月21日、名瀬有屋町

を出すのに合わせて、3歳で家族とともに福岡へ移住した。

そのため、職人の姿も、機械の音も知らずに育った。子どもの頃は「大島紬は家に積まれている反物」でしかなく、「家業を継ぐつもりはまったくなかった」という。転機は、大学でコンピュータグラフィックス(CG)や画像工学の分

変革恐れず、異業種コラボも

はじめ商事 元允謙さん

野を専攻していた21歳の夏。進路に悩んでいた頃だった。長期休暇で奄美大島に滞在中、父の雅亮さんに「暇なら紬製造の現場を見てみるか」と声を掛けられ、県の施設である大

柄に大島紬を織っているのを見て、衝撃を受けた。「大島紬ってこんなにクリエイティブで、自由なものなんだ」。元さんはその後、大学を休学して県の研修制度に参加。1年かけて大島



はじめ商事3代目社長の元允謙さん＝1月21日、名瀬有屋町



古い着物を「裂き織り」で新たに織り直したオリジナル生地「奄美布」＝1月21日、名瀬有屋町

島紬技術指導センターを見学した。そこで自分と同世代の若い研修生らが伝統技術の習得に励む姿を目の当たりにし、研修生の一人が、ジョン・レノンの顔を

卒業後は京都の呉服問屋に就職。2007年に奄美大島へUターン、間もなく家業に入り、18年に父の跡を継いで3代目社長に就任した。

社長就任後、元さんはそれまで主力だった卸売りを縮小する。一時的に売り上げは減ったが、「量がないと成立しないような薄利多売のやり方では今後は続かない。自分たちで作り、自分たちで売る会社」と、その後も方針を貫いた。

ただ理想をかなえるには「売れる商品作り」が必須。元さんはそのヒントを、県の施設で1年間学び、大島紬の全工程を

知ったことで得ていた。細かな分業制で成り立つ大島紬。「工程を分解し、それを別の分野と組み合わせることで可能性は無限に広がるはず」

そうした発想で生まれたのが、看板商品の「奄美布」だ。着られなくなった大島紬などの古い着物を、「裂き織り」という技法で新しく織り直したオリジナル生地。

裂き織りは古い生地を裂いたものをよこ糸として新しい生地を織る手法。紬の職人が紬の機を使い、紬のたて糸で織り上げることで、丈夫な奄美布が生まれる。

仕上がった生地を使いオーダーメイドの小物に仕立て直すこともでき、好評を得ている。

15年に有屋町に建設した工房では、大島紬をガラスでコーティングした「クリスタル大島紬」のコースターや皿などのオリジナル商品を販売。機織りや泥染め体験なども行っている。

■生きた技術を未来へ

2022年には、イタリアの高級車メーカー「フェラーリ」と、はじめ商事の「奄美布」がコラボレーションした世界に1台の車が発表さ

れ、話題を呼んだ。奄美布が使われたのは車のシートとフロアマットの部分。

生地そのものの価値に加え、伝統に根差した制作背景や、伝統工芸としての大島紬の価値が評価され、フェラーリ側からコラボ企画の打診があったという。

「異なる業界、視点を持つ人たちとつながらなると、新しいものは生まれない。これからもさまざまな縁を大事に、新しいチャレンジを続けた」と語る元さん。

「1300年の歴史の中で大島紬は何度も形を変えてきたはず。明治に確立した今の形だけにこだわる必要はない」と変革を恐れない一方で、「大島紬を何とか次の世代へ」との思いも強い。そのため、それぞれ

の製造工程を別々の商品に生かすことで、いつても「本来の大島紬」に戻せる環境を残す。それは伝統の型にこだわり保存するのではなく、「生きた技術」として未来へつなぐ試み。

「職人だけでなく、同じことを続けるのは性に合わない。新しいことをやりたいから紬の仕事をやっています」元さんの挑戦は続く。

挑む ヒト・コト・モノの魅力発信

ブログで始まった一人の試みが、島の人を巻き込み島を発信するサービ
 ビスに成長している。フリーペーパーや島の商品販売のECサイト（イ
 ンターネットショップ）に実店舗運営…。「しーま」はヒト、コト、モ
 ノをつなげ奄美の魅力を多方面へ届けている。「奄美は良さは持っている
 る。みんな知らないだけだ」。かつて都会で暮らし、そう感じていた代
 表の深田小次郎さん（49）―笠利町須野出身―は「奄美の情報発信」を
 軸にしーまを立ち上げた。その試みは今も進化を続けている。

■島の情報足りてない 20代の頃、東京でバン きることは何だろうと思
 ドマンとして暮らしてい っていて、30歳手前の頃
 た深田さん。「自分でに振り返ったらそこに故



深田小次郎さん（前列中央）と、しーまの皆さん＝1月22日、名瀬のWorkStyleLab

郷があつて島のことを考
 えるようになった」

当時の東京では奄美の
 知名度は無い。自然や文
 化に人の温かさ。故郷の
 魅力はたくさんあるが情
 報発信が足りていないと

ブログから広がる挑戦

しーま 深田小次郎さん

感じていた。
 情報を整理し発信した
 ら、旅行者を呼び込み、
 物産も価値を持って全国
 で販売できるのではと考
 えた。広く浸透してきた
 インターネットの存在も
 あり、「島の情報量と島

ー発行、地場産品のEC
 サイトや実店舗、カフェ
 の運営。フリーランスの
 拠点施設の運営管理など
 多方面に進んできた。
 14年に始めたフリーペ
 ーパーの「みしよらんガ
 イド」はグルメ冊子とし

の発展は比例する」と仮
 説を立て、帰郷して20
 10年2月、誰もが記者
 として島の情報を発信で
 きる「しーまブログ」を
 始めた。

■多方面に進化

しーまの事業は、プロ
 グに続き、フリーペーパ
 ー

て人気を博し、同社の代
 表的な媒体に成長。
 19年に立ち上げたEC
 サイトの「奄美産直いっ
 ちば」では地場産品を販
 売する。新型コロナウイルス
 禍の20年には、奄美
 群島のお薦め品の詰め合
 わせと地図を同封したギ
 フトセット「奄美Trie
 p」に人気が集まった。

■島のものだけ贈る

「物産が島外に出てそ
 の良さ、おいしさが伝わ
 る。食べた人が『これ良
 かったね。どこの?』と
 なる。文章や写真だけじ
 ゃなく五感で感じる情報
 がある」

を高める取り組みは好評
 だ。「これまで島のもの
 だけで作られているギフト
 セットはなかった。『こ
 れを贈ればいい』という
 ものがあつたら情報発信
 がさらに広がるのでは」
 しーまが箱のデザイン
 を手掛け、島の商品を組
 み合わせられるオリジナ
 ルのギフトボックスは観
 光客に人気で、島の人も
 内祝いなどに利用している。

■人と人をつなぐ

24年には名瀬朝日町に
 島の物産を販売する「い
 ちばストア」を開店。
 店頭に立つこともある深
 田さんが青果を毎朝市場
 で仕入れる。「競りのや

をオープン。奄美群島の
 各企業が作る商品やギフ
 トセットが並ぶ。
 お土産として売られて
 いる個々の商品をギフト
 ボックスにまとめて価値

しーまの取り組みの中
 で地元の生産者や加工業
 者、一次産業従事者とな
 がり、事業を展開して
 きた。過去にはドラマー
 としてバンドのリズムを
 つくっていた深田さん。



しーまが箱のデザインを手掛けた奄美の詰め合わせギフトセット



500品目以上の奄美のものを取りそろえたギフトショップ「okuru amami」＝1月22日、名瀬末広町

「人と人の中に入り、つ
 なぐことを自然と考える。
 買い手と売り手をマ
 ッチングしていくのが僕
 らの一つの特徴」とい
 う。ブログから始まった仮
 説の検証は今後も続く。
 「島にあるものを組み合
 わせて情報として発信
 し、それが皆さんに刺さ
 って島のファンを作る。
 そんな循環ができれば」。
 これまでのチャレンジを
 周りが温かい目で見てく
 れたと感謝し、これから
 も挑戦できる島であつて
 ほしいと願っている。

繋ぐ

二地域居住という暮らし方を実践しながら、奄美市をはじめとした人と仕事を結ぶ取り組みを進めているのが、合同会社KAZAMI＝奄美市名瀬＝の代表、矢吹飛鳥さん（44）だ。

合同会社KAZAMI

代表 矢吹飛鳥さん

風を運び、地域をつなぐ



二地域居住を実践しながら、人と仕事を結ぶ取り組みを進める矢吹飛鳥さん＝1月20日、奄美市名瀬

■二地域居住を選択
「外から来た人間だから、吹さんは、神奈川県横浜出身。移住ではなく、二地域居住という選択で、ながら継続的に生きていく。加えて、動き続けているか、島との関わりを深めていくか、その循環を生きた。二地域居住は都市と地方の両方からメリットを得られる。二つの地域に拠点を持ち、仕事や生活をする」と語ります。

二地域居住で奄美市の「人と仕事」に循環を

「移動している、たとえ悩んでいても前に進んでいる感覚がある」。物理的に動く暮らしは、視野を広げ、人との出会いを生んできた。名瀬の大きな転機は10年前以降だ。「消費するだけでなく、地域の一員として関わりたい」という思いが強まり、鎌倉市と奄美大島の二地域居住を実現。23年7月に合同会社KAZAMIを設立し、同年10月には名瀬に仕事や勉強、交流の場を提供するライフ&ワークスペース「Living AMAMI（リビングアミミ）」を開いた。



矢吹さんがオーナーを務めるライフ&ワークスペース「Living AMAMI（リビングアミミ）」＝1月20日、奄美市名瀬

■魅力生かし、成長へ

矢吹さんは、奄美が全国的にも高い魅力を持つ地域だと感じている一方、その力を十分に生かし切れていない部分もあると話す。「移住、二地域居住、関係人口はそれぞれ違う。どんな人に、どう関わってほしいのかを明確にすることが大切だ」。

奄美市で暮らし始めて実感したのは、「政治との距離が近い」と。「人との距離が近い分、政治家の声を聞きやすい」と。政治の原動力は何か、自分が住んでいる地域をどうしていきたいかという話がすくく活発」と印象を語った。

市制施行20周年を迎えた奄美市。外と内、両方の視点を持つ矢吹さんは「今、変化のスピードが上ってきている。昔ながらのいいものを残しながら、より住みよい街にしたい」というパワーを込めて。自分も成長に貢献したい」と語る。風向きを読みながら必要な場所を風を運び、人と地域をつなぐ。その歩みは、奄美市の未来を後押ししている。

「奄美市誕生時は長期出張中。島に帰ってきたら上司が変わってた」と笑いながら市町村合併当時の思い出を振り返るのは元奄美市職員の新元一文さん（55）。現在は、「奄美の文化や知恵を学び、社会に楽しみをつくる力を育む」ことを目的に立ち上げた一般社団法人「巡めぐる恵めぐる」の代表理事を務める。自身の活動について「島唄や島口、八月踊りなどそれぞれの継承も大切だが、それらの核となっている奄美の先人たちの願いや教訓を語り継ぐことが本質」と熱く語る。

「巡めぐる恵めぐる」 代表理事 新元一文さん 先人の願い、教訓を後世へ



出張授業で奄美の歴史を伝える新元一文さん
＝1月20日、奄美市名瀬の小宿中学校

■行政経験生かし
NPO設立
市職員時代は「細い光線」で観光振興に携わった。合併後、最初に感じたことは「空利、住りや、一集落一ランド」な数々の企画に携わった。「市役所では毎年6月に来年度の企画を提案するヒアリングがあり、偉い人たちの話を聞いて、口説き落すか、大変なことに楽しかった」と立ち上げた。当時を振り返る。「お互いの町のことをも知ろう」との思いから、市内各地の名所巡りの調整役の存在が重要だったわけではないが、市役所には適切な人材がいない。それよりも現場で自分で動く方がいいと感じた」と当時の心情を語った。

■節目はLCC就航
合併後20年を振り返り、LCC（格安航空会社）の就航と世界自然遺産登録を節目に挙げる。「過去の観光ブームでは沖繩やハワイをまねる動きもあった。観光客が増えることも大事だが、ニーズに合わせて島を変えてしまつと島の良さもなくなってしまう」と危惧し、「世界自然遺産登録の影響で、観光客の興味

環境文化型観光の可能性に期待

が希少な動植物などに集中してしまい、オーバートーリズムなどの問題が起る恐れもある。自然にも育まれてきた暮らしや文化こそが奄美の魅力。環境文化型観光にもっと力を入れるべき」と訴える。



事務所の「ムルfee | BASE」は語らいの場。この日は県本土の高校生も訪れた＝1月23日、奄美市名瀬末広町

■奄美から情報発信を
法人への業務は建前は旅行サービス手配業者だが、出張発表講師、観光ガイド、ツアーコーディネーターなど多岐に渡り、島内外を駆け回る多忙日々を送る。「たびたびの仕事をしているのか分からない」と言われてしまふ」と笑う新元さん。「忙しい現代社会だが、もう少し余裕をもち、家族や好きな人たちとゆっくりの会話を楽しむ。そんなひとときを奄美で体験してほしい」と自身の思いを述べた。

会だが、もう少し余裕をもち、家族や好きな人たちとゆっくりの会話を楽しむ。そんなひとときを奄美で体験してほしい」と自身の思いを述べた。

島唄漫談バンドの「サーモン&ガリリック」で発弾したあふれるエネルギーメント精神は変わらない。新元さんとの楽しい語りを求めて、法人事務所の「ムルfee | BASE」には老若男女が訪れる。「本来はインターネットの普及で地方からも情報発信できる時代。奄美でしかできない生活の魅力を発信できる若者を育てていきたい。島内の地域おこし協力隊員などと賛同の動きが広まってきて将来がますます楽しみ。地域の魅力を掘り起こし発信できる人材が島内に10人もいれば、きっと奄美は変わる」と期待を込めた。

守る

食を通じて見守る「市民の母」

奄美市が子育て支援のため月1回、市保健センターで開いている「のびのびっこ広場」。助産師、保健師、管理栄養士などの専門家から直接助言を受けられるとあって子育て世代に好評を得ている。スタッフの中でも、ひととき信頼を置かれていたベテランが、市健康づくり推進員の東郷はるみさん(75)。1999年から27年間、ボランティアで食生活改善推進員を務める一方、民生委員、児童委員も兼任し、市民の生活を母親目線で見守り続けている。



「今のお母さんたちは本当に大変。できる限りサポートしたい」と語る東郷さん＝1月28日、奄美市名瀬井根町の市保健センター



のびのびっこ広場で母子と触れ合う東郷さん。「優しくてベテランならではの安心感がある」と母親たちからの信頼も厚い＝1月28日、奄美市名瀬井根町の市保健センター

がないのが現状。飲酒、喫煙、ストレスの影響もあり、男性は味付けが濃くて脂っこいものを好む傾向がある」と分析する。「特定検診やミニドックの受診はもちろん、普段の食生活を見直してほしい。奄美の食材はミネラルが豊富で健康にも良いものが多い。旬の素材のおいしさを感じられるシンプルな味付けを心掛けて。子どもや男性も料理を積極的に手伝うと食への理解が深まるのでお勧め」と助言した。

■今後の歩み

現在は名瀬小湊で夫と2人暮らし。今後の活動については「もう80歳も近いので頻繁に外に出る仕事は今期が最後だと考えている」と話す一方で、「自分と家族の健康を守りながら、地域の身近な相談相手になれるように心掛けたい。これからは行政と協力しながら市民の健康づくりのお手伝いができたら」と思いを語った。

■男性も健康に関心を

「最近の子育てサロンに参加する父親の姿も見えてきた。とても良い兆候」と喜ぶ東郷さんだが、一方で男性の早世が多いことに懸念も。「健康に関する各種研修や講習も参加者はほとんど女性。女性が子育てを通して健康への意識が向上していくのに対して、男性は仕事に追われてそんな時間

たの世代では、子育てや家事は「母親の役割」という考えが強かったが、今は違う。夫婦共働きが当たり前の中、家事も育児もこなすのはとても難しいこと。本当は時間と手間を掛けてほしい

母の影響で私も料理が好きになった」と話す。自身は娘2人を育て上げ、孫は5人。子育て支援に関わるようになったのは初孫が生まれたことがきっかけだったという。「孫との接し方、触

同源。「バランスの取れた食事が病気の予防になる」との信念のもとで、子どもや男性向けの料理教室、朝食摂取の推進などを推進してきた。食を重んじる理由について「母

■念頭に「医食同源」

東郷さんは知名町田皆出身。71年に鹿児島純心女子短期大学を卒業後は、与論高校教諭や病院事務、市の消費生活相談員などを務めた。子育てが一段落してからはボランティア活動に従事。食生活改善推進員を皮切りに、2008年からは母子と成人担当の保健推進員も務め、市民の健康を総合的に見守る健康づくり推進員として活動を続けていく。

推進員として常に念頭に置いているのが「医食

男性の早世改善が課題

食生活改善推進員 東郷はるみさん

が豆腐も手作りするなど料理が得意だった。私が小学生の時に父が亡くな

れ合い方を学ぶため、地域の妊婦さんや赤ちゃんに声掛けをするようになった」と話す東郷さん。

■女性の役割が変化

食生活改善推進員を務めた四半世紀で大きく変化したこととして「母親の役割」を挙げる。「私

い料理を作ってもらいたいが、現代の忙しいお母さんたちに無理強いはできない」と今の子育て世代を気遣う。「昔は抵抗があったが、

日は難しくても家族で食卓を囲む時間をつくって。おいしい食事は皆を幸せにするし、子どもの成長が感じられる貴重な時間にもなる。夫婦で助

「最近の子育てサロンに参加する父親の姿も見えてきた。とても良い兆候」と喜ぶ東郷さんだが、一方で男性の早世が多いことに懸念も。「健康に関する各種研修や講習も参加者はほとんど女性。女性が子育てを通して健康への意識が向上していくのに対して、男性は仕事に追われてそんな時間

旧姓は根釜。関西奄美会会長の先山和子さんは3歳年上の姉。「市制施行20周年の式典で姉と再会できるのが楽しみ」と笑顔を見せた。

守る 島に住む学芸員として

市立奄美博物館の自然担当者として、資料の収集や保管、展示のほか、観察会などの教育普及活動、生き物調査、論文執筆、全国各地での講演活動など多忙な日々を送っている平城達哉学芸員（34）。昨年開催された大阪・関西万博では奄美大島・徳之島を代表して登壇するなど、奄美の自然分野で活動する若手として、存在感は大きい。



奄美の生き物を世界に向けて発信した大阪・関西万博のステージ
2025年6月5日、大阪市

■幼少期から生き物好き

名瀬出身。幼少期から生き物が好きで、小学校時代にはかばんに隠していたオキナワキノボリトカゲが教室内に逃げ出し、担任の先生に怒られたことも。一方で、野球部に所属

し、「小中高時代の友人からは生き物好きではなく野球少年と見られていたと思う」と笑う。

■平城さんの中で「生き物スイッチ」が完全に入ったのは、県立大島高校の野球部を引退後。大人に連れられて、夜の森で生き物探しをした際に、路上にたまたまアママヤマシギの姿を見た時だった。それ以来、母親に頼んで島内の峠道などを回るようになったという。

部活動を引退後、受験生だった平城さんはある日、知人に連れられてハブ博士で知られる服部正策さんに会うことになった。服部さんは「面白い子がいるからということ」で会った。当時（の平城さん）は、体育会系の高校生で今のような存在になるとは思いもしなかった。植物の写真図鑑をプ

■服部先生との出会い

部活動を引退後、受験生だった平城さんはある日、知人に連れられてハブ博士で知られる服部正策さんに会うことになった。服部さんは「面白い子がいるからということ」で会った。当時（の平城さん）は、体育会系の高校生で今のような存在になるとは思いもしなかった。植物の写真図鑑をプ

で、目指したい存在」と語る。

■万博で奄美を発信

国内の世界自然遺産5地域の関係者がそろった昨年の万博でのイベント。ベテランの発表者が目立つ中、奄美からは若手の平城さんが登壇。生き物の多様性や保全の取り組みなどを世界に向けて発信した。「聴衆の方に何かしら奄美のことを

「継承」と「発信」

奄美博物館 平城達哉さん



プレゼントしたが、まったく期待していなかった」と振り返る。

その時は一度だけの交流だったが、平城さんが大学を卒業後、奄美で再会。生き物好きの2人は意気投合し、現在も共同で調査を行うなど関係が続いている。

平城さんは服部さんについて「高校の時の出会いがあったからこそ、親身になって面倒を見てもらえたと思う。（農学博士の）服部先生と立場は違えど、奄美大島の自然に関する学術的な内容を調べ発信したいという点

覚えてもらいたいと思っ、幅広い内容をカバーした。緊張することなく楽しかった」と振り返る。裏話だが、当初に講演の登壇者として打診があったのは服部さん。しかし、服部さんは平城さんを推薦した。若い学芸員に道を譲ったのだ。

■地元への思いを胸に

沖縄県の琉球大学を卒業後、地元に戻ってきたのは奄美大島の生き物のことをもっと知り、社会に貢献したいという強い思いがあったから。博物

■次の10年、20年へ

現在、力を入れるのは資料のデジタルアーカイブ化。「収集、保管するだけではなく、デジタル情報として恒久的に記録し、公開することで研究者など、いろんな分野の方に活用してもらいたい」と話す。

これからの10年、20年に向けての意気込みを尋ねると、「次世代を担う子どもたちに奄美の自然の面白さや価値を伝える継承活動と、生き物の記録の発信。島に住んでいるからこそ日々の記録を見逃さず、論文で報告するなどして、学術的に貴重なことが埋もれることがないように発信したい。それが島や市に貢献することにつながれば」と力を込めた。



夏休みに奄美博物館が主催する「夜間いきもの観察会」
2025年8月9日、奄美市住用町

住民主体の防災体制を構築

住用町・建設会社

三浦和美さん

守る

奄美市の中でも特に先進的な防災体制を構築しているのが、住用町役勝だ。2022年6月、住民が主体となって防災会議を開き、避難・防災計画を取りまとめた。現在は、独自の防災ネットワーク（LINEグループ）を活用し、集落住民や地域内の協力企業など約40人が参加して災害時の情報共有を図っている。同集落在住で計画発起人の三浦和美さん（70）は「三浦建設代表取締役会長」に話を聞いた。



役勝集落の避難・防災計画発起人の三浦和美さん。2月14日、奄美市住用町

■きっかけは深夜の間
違い電話

LINEグループ「役勝」災害避難連携所。立ち上げたきっかけは22年1月に奄美群島に発令された津波警報だった。深夜、三浦さんのもとに一本の電話があったのだ。電話の主は、いつもお世話になっている集落の90代女性。「どこに逃げたらいいの？」と焦る声で聞かれた。

女性は島外で暮らす子どもから「すぐ逃げて」と連絡があったようで、友人に避難場所を聞こうと電話を掛けたつもりが、三浦さんにつながったらしい。

三浦さんは「ここは海抜11メートルだから大丈夫よ。

ゆっくり眠ってね」と伝えたが、数日がたってもこの出来事が胸につかえていたという。

「私の場合はここが安全だと分かっていたので安心できたけれど、知らないことで感じる恐怖は大きい。何か役に立てることはないだろうか」

■集落を巻き込んで

三浦さんは当時、社長職を退き会長に就任したばかり。「動ける時間ができた」と、家族の協力も得て行動を開始した。役勝集落は上役勝、中役勝、下役勝の3地区から成る。まずは各地区の区長や民生委員、企業に声を掛け、話し合いを重ねた。

防災士の資格を持つ役場職員のアドバイスによ

ると、最も重要なのは「情報の共有」。そこで、LINEを活用した連絡体制の構築に至った。

26年2月9日現在、3地区合計の人口は85世帯145人。LINEグループには42人が参加しており、LINEを使用していない高齢者などの場合は、島外に住む子どもたちが代わりに参加しているという。

運用する際の注意点は「返事をしないこと」。参加者全員が指示に対し「了解」などと返信すると情報が錯綜し、統制が取れなくなってしまうからだ。グループでは①書き込みは基本的に、区長、消防団員、地域総務課および避難管理者が行う②災害発生時・緊急時は、災害の発見者および区長や消防団員などから依頼された人も書き込める③「らしい」などのうわさ話や伝聞ではなく、確実な情報のみ書き込む④ことを注意事項としている。

■顔が見える関係で

奄美市を語る上で忘れてはならないのが10年10月の奄美豪雨災害。特に被害が大きかった住用町で、三浦さんの会社の従業員は、災害発生直後か

ら住民の避難支援やインフラの復旧作業に24時間体制で対応したという。役勝集落は1990年の台風19号でも浸水被害を経験。記憶の風化を防止するため、同集落では毎月第3日曜日を「防災について考える日」に定め、集落放送や不定期の勉強会も開いている。

個人的にも日常のコミュニケーションの中に防災トークを溶け込ませているという三浦さん。自家製野菜をお裾分けがてら訪れた地域住民宅で、家具の固定や避難経路の確保などを呼び掛けていた。

「地域の皆さんと仲良く付き合っていくこと。お互いに言いたいことを言いながら、いざという時は一つになれる。普段からの顔合わせが一番大事」と三浦さん。最近では、集落で途絶えていた「八月踊り」を復活させ、老若男女が一緒に集まる機会も増えたと喜ぶ。

顔が見える関係があるからこそ、守れる命がある。三浦さんは「役勝のような取り組みは絶対に必要なこと。中心になる人は大変だとは思いますが、自分を育ててくれた地域だということ、ぜひ立ち上がってもらいたい」と語った。



集落民や地域企業などをつくる防災ネットワーク「役勝」災害避難連携所。2月14日、奄美市住用町（一部加工）

「顔の見える連携」進む

防災各機関の関係強化へ

奄美市市制施行から20年。奄美大島は2010年の奄美豪雨をはじめ、度重なる台風など、さまざまな自然災害に見舞われてきた。本土から遠く離れた離島という地理的制約の中、市民の命をいかに守るか。行政、警察、消防、自衛隊、気象庁、海上保安庁など多岐にわたる国・県の機関がそろい、日常的に顔を合わせる環境を持つ奄美市では、官民の枠を超えた多機関による「顔の見える連携」が進んでいる。「あの人の顔が浮かぶ」という信頼関係が、多職種の枠組みを超え、離島特有の課題に立ち向かうための防災モデル構築の可能性を広げている。



県防災訓練で行われた広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)の設置訓練。2024年5月26日、奄美市名瀬の陸上自衛隊奄美駐屯地



7機関が参加し、防災危機管理に関して情報共有を図った合同勉強会。2024年6月28日、奄美市名瀬の陸上自衛隊奄美駐屯地

■「空白期間」を生き抜く
24年5月、奄美市を中心に実施された鹿児島県総合防災訓練。マグニチュード8・2の巨大地震と大津波、さらに土砂災害などが重なる複合災害を想定し、80機関・団体の約1000人が参加した。訓練では、能登半島

地震の教訓を反映した衛星通信の活用や、陸上自衛隊奄美駐屯地への広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)設置なども実践した。
訓練後、県立大島病院救命救急センターの中村健太郎医師は「市街地が浸水した際、高台にある駐屯地は医療・搬送の唯一の窓口になり得る。訓練を通じて自衛隊と顔の見える関係を築けたことは、離島医療において極めて大きい」と総括。本土からの支援を待つ「空白期間」の島内での対応、それを補いつつための連携の重要性など、離島災害における課題が改めて浮き彫りとなった。

こうした島内の連携強化への取り組みに、各地での防災訓練や、22年から始まった陸自駐屯地主導の「合同勉強会」がある。当初、3機関で始まった勉強会は、25年には県大島支庁や気象庁、病院など、防災の基幹を担う9機関へと拡大。同駐屯地の堀内高志司令は「本土からの増援には時間を要する。関係機関が相互の能力を把握し、不足を補完し合う関係を平時から築くことが重要だ」と、顔の見える関係の意義を強調する。

昨年、海上保安庁の巡視船「あまみ」で行われた合同訓練でも、海保のクレーンを用いて自衛隊のオートバイや電力会社などの復旧資機材を積み込むなど、各機関が単独では持ち得ない能力を補完し合う方法をすり合わせていた。

気象庁名瀬測候所の阿見隆之地域防災官も、「南海トラフ地震発生時は本土中心の対応となり、奄美地方は限られた空間内で自立的な対応が必要となる」と警鐘を鳴らす。測候所は平時に加え、非常時には避難情報発信のタイミングを自治体に助言。災害発生後72時間以内の救助活動においても自衛隊や消防などの活動判断、船舶輸送などに関わる気象情報の発信など、多機関の活動に対して重要な役割を担う。

阿見防災官は「奄美では台風への警戒心は非常に高いが、地震や大雨に対する危機感にはまだ改善の余地がある」とも指摘。「測候所として、災害発生前の避難に結び付く情報発信が最重要。定期的な勉強会や連絡会を通じて関係機関と連携強化を図り、空振りや恐れず事前の気象情報を提供するなどで、住民の自助・共助を促し早期避難につなげたい」と語った。

市は現在、避難情報の迅速な伝達のため、防災無線に加え、公式LINEやSNSなどの多角的な情報発信ツールを整備。27年度の地域防災計画の改定に向け、ハザードマップの更新、個別計画の修正など、より正確な情報を届ける体制を整えている。

一方で、行政や実動機関の連携が強固になっていっても、それは「公助」の枠組みの一つ。防災の担当事者たちが同様に重視するのは、市民一人ひとりの意識の重要性だ。自らの命を守る「自助」、地域で支え合う「共助」、そして行政や関係機関による「公助」。3点が結び付くことで、災害に強い地域が築かれる。

奄美市の徳山一史防災危機管理室長は「まず大切なのは自分の身を自分で守る自助と強調。自分の命の危険を他人が察知するのは難しい。正確な情報を自分でキャッチし、助けてほしいときは自ら伝えられる意識を持つ。それがあって初めて、地域で支え合う共助や公助の連携が、命を救う力につながる」と力を込める。

市は現在、避難情報の迅速な伝達のため、防災無線に加え、公式LINEやSNSなどの多角的な情報発信ツールを整備。27年度の地域防災計画の改定に向け、ハザードマップの更新、個別計画の修正など、より正確な情報を届ける体制を整えている。

市は現在、避難情報の迅速な伝達のため、防災無線に加え、公式LINEやSNSなどの多角的な情報発信ツールを整備。27年度の地域防災計画の改定に向け、ハザードマップの更新、個別計画の修正など、より正確な情報を届ける体制を整えている。

「自助」の意識

一方で、行政や実動機関の連携が強固になっていっても、それは「公助」の枠組みの一つ。防災の担当事者たちが同様に重視するのは、市民一人ひとりの意識の重要性だ。自らの命を守る「自助」、地域で支え合う「共助」、そして行政や関係機関による「公助」。3点が結び付くことで、災害に強い地域が築かれる。

奄美市名瀬出身。大学で福祉を学び、現在は障害福祉サービス事業所「あしたば園」のサービス管理責任者として勤務。障がい者の生活介護、就労支援などを行う。福祉サービスを管理する立場から、人の特性が生きて、働く喜びが循環する地域像を思い描いている。

「利用者が見せる表情など、日々の変化を捉えることが仕事のやりがい。障がいやハンディを抱える人が、地域の中で当たり前になるように過ごせるようになってほしい。誰もが働きやすいように、仕事の仕組みを整えることなどが大切だと思う」

人の特性が

生きる地域に

向井周一さん(41)



緑の多い

奄美が好き

益田大誠さん(14)



地元の宝を世界へ

前川晃一さん(38)



奄美市名瀬のしまかわバッテリーセンターで野球やソフトボール用品の販売やユニホーム製作をしている。子どもから大人まで利用者にアドバイスをすることもあり、大島高校野球部の選抜出場(2014、22年)も見守った。社会人ソフトボール大会の運営に15年以上携わり、24年から同支部の事務局長を務めている。

「社会人ソフトボール大会の出場チームはここ15年で約100チームから約60チームに減少した。どのスポーツも競技人口が減少しているのは残念だが、練習に来ていた子が成長した姿を見ると、スポーツに関わる人間としてやりがいを感じる。活気のあるまちづくり、店づくりをして、スポーツで島を盛り上げていきたい」

スポーツで島を

盛り上げたい

島川ひとみさん(39)



奄美の自然と

芸能を大切に

鴫 圭子さん(57)



良い出会いがある街に

富田恭弘さん(68)



金又中学校の2年生。生徒会長とバスケットボール部の部長を務める。小学生でバスケットを始め、現在は5月の県大会に向け練習に打ち込んでいる。

「小さい頃から海や山、公園でたくさん遊んだ。奄美はのどかで緑が多いところが好き。みんなで盛り上がる六調も良いなと思う。将来はまだ未確定。1回は島外へ出て、いつかは戻ってきたい。世界自然遺産登録後に知名度が上がったが、今後も奄美の自然や伝統が守られてほしいと思う。大人になっても身の回りのことを大事にし、感謝を忘れないようにしたい」

奄美市名瀬の鮮魚店「前川水産」の3代目。京都の老舗料亭やフランス料理店での修行経験から、地元奄美の魚介類を全国各地の有名店へ卸している。同市名瀬で居酒屋も経営。世界的な日本食の普及を追い風に、近年は加工品の輸出にも力を入れる。

「奄美の魚でも特にアカマツ(ハマダイ)は最高レベルの味。世界で戦えるような将来性のある天然資源が地元にあることをもっと多くの人に伝えていきたい。次の時代を担う子どもたちにも、地元を誇らしく思ってもらえる奄美市にしていきたい」

富田酒造会長。20代で帰島し、約40年間、醸造に携わってきた。55歳で兄の和男さんから社長の職を引き継ぎ、65歳で長男の真行さんに託し、会長に。現在では店舗も経営し、自らすしや鶏飯などを振る舞っている。

「昔は売れない酒屋だったから、反省と工夫の毎日だった。味を少しでも良くしたいと工場の機械や床、甕を磨いた毎日だった。掃除をすると自分自身も磨かれて良い人と出会い、30年程かかって会社が今のようになった。もちろん悪い人もたくさんいたけど。これからの奄美市は良い出会いがある街であってほしい。(後輩たちは) 出会いを求めて動いて、良い人を見抜ける目を体得してほしい」

「奄美市に望む」

県立大島北高校普通科の3年生。生まれも育ちも笠利町。高校では3年間、定期考査での成績上位をキープした。大学に進学し、臨床心理士などの資格取得を目指す。スクールカウンセラーなど、心理学に関する仕事に就くことが夢。

「吹奏楽部では副部長を務め、地域の人を楽しんでもらうことをモットーに取り組んだ。笠利町は『結の心』を感じられる温かな地域。登下校中に地域の人にあいさつして、そのまま会話が弾むこともある。八月踊りや大島紬などの伝統文化が受け継がれていくことを願っている」

地域の文化継承へ

赤塚結南さん(18)



シマの味を

いつまでも

土濱幸枝さん(64)



合同会社「味の郷かさり」の3代目代表。現在は地元女性の16人が在籍し、地域の伝統菓子や加工品の製造と販売、地場産農産物が並ぶ直売所の運営管理を行っている。

「10年前に比べて農業従事者は少なくなってしまうが、若手の方が珍しいフルーツや野菜を作って出店してくれるのは頼もしい。ふくらかんやかしや餅、ソテツみそなどはどれも誇りを持って作っており、地元の方から観光客まで好評。この味を絶やさないよう、これからもみんなで頑張っていきたい」

挑戦でできる

環境づくりを

林晋太郎さん(38)



任用町出身。タンザニアの日本大使館勤務時に香料のパニラと出会い、2022年に帰郷。現在、笠利町で奄美初のパニラ栽培に挑戦しているほか、輸入パニラの販売やカフェ経営、観光農園事業などに取り組んでいる。

「少子高齢化の中、人を呼び込むには新しいことにチャレンジできる環境づくりが一層重要。後押しするような政策に期待したい。私自身も家族や地域の方々、行政のおかげで今がある。パニラ栽培が軌道に乗り、若い方に『自分も何かチャレンジしよう』と思ってもらえたらうれしい」

神奈川県横浜市出身。大学、大学院で「まちづくり」をテーマに研究し、調査で10年程前に初来島。以来、数回来島して約1カ月滞在したことも。東京の企業に3年務めた後、3年半前に学生の頃から切望していた奄美大島へ移住が実現。現在は笠利町で観光業に従事している。

「自然や文化はもちろん、人とのつながりが奄美の魅力。東京では学校や会社で関わりのある人としか友だちになれなかったが、奄美では集落や同世代のコミュニティなどでいろんな人と仲良くなれた。コンビニのエブリワンがファミマに変わったくらいで、良い意味で変わらないのも魅力。これからも人とのつながりが残り続けてほしい」

人とのつながりが

残り続けてほしい

楠瀬陽平さん(31)



市として

一緒に発展を

平良シゲ子さん(87)



任用町の川内であくまきやフツモチ(よもぎ餅)、はったい粉餅、ドーナツを製造し、市内などで販売している。名瀬で毎月第4日曜日恒例の「なぜまちマルシェ」にも出店。昔ながらの味で島内外のファンに愛されている。

「小さな任用村が合併で奄美市になり、なんだか気持ちまで大きくなったよう。市街地のイベントに出るのも楽しく、100歳になっても続けたい。川内は山の中の小さな集落だけど自然豊かでもっともいい所。催しを開いてにぎわいをつくるような市の取り組みがあればうれしい」

奄美ならではの

子育てを

田畑麻美さん(38)



2023年3月、縁あって家族5人(子ども3人)で任用町へ移住。栄養士として市役所の任用支所に勤務している。移住の決め手には「自然や地域の人と関われる、奄美ならではの体験を子どもにしてほしい」などの思いがあった。

「集落行事に参加したり、家族全員で楽しみながら日々過ごしている。この3年間で知り合いも増え、皆で子育てしている感じ。親目線では、子どもたちが他の地域の子どもと交流、切磋琢磨できる市の取り組みがさらに増えるとうれしい。栄養士の立場から、食育を通じた地域貢献もしていきたい」

奄美市長の座談会



20周年を指で表す20歳の参加者と安田壮平市長

出席者

- 青木 隆さん (奄美情報処理専門学校2年)
- 里 聖斗さん (奄美情報処理専門学校2年)
- 中島 昊太郎さん (奄美情報処理専門学校2年)
- 田所 あかりさん
(奄美看護福祉専門学校こども・かいご福祉学科2年)
- 時岡 優里奈さん
(奄美看護福祉専門学校看護学科2年)
- 世門 憂汰さん
(奄美看護福祉専門学校看護学科2年)
- 宮崎 南実さん (奄美信用組合)
- 司 会 安田壮平奄美市長

奄美市と同じ20歳を迎えた皆さん7人と安田市長との座談会が、奄美市役所で行われました。座談会では、20歳の皆さんから自然や文化など奄美市の持つ魅力や、現在から未来に向けた課題や意見、提言、さらに将来の夢などが語られました。

■奄美市の魅力と課題

市長 市長の安田と申します。きょうはよろしくお願いします。奄美市も20周年、皆さんも20歳で同じ年ですね。現在のことを確かめながら、また5年、10年後、その先も含め、お互いいろいろな意見交換する場になればと考えています。

市長 まずは奄美市に暮らしていて好きだと感じることも、またもう少しこうだったらいいのにと感じることも、この2点について伺います。

田所 好きなどころは、人が温かくて優しくてあいさつしたら返して

くれるところ。バスなど通学費用の補助がもっと充実すると助かります。

青木 好きなのは海や山、変わらない自然と触れ合うことが多いところ。遊ぶ場所が増えたらいいなって思っています。

時岡 人の温かさとか自然とか文化が日常に溶け込んでいるところが、やっぱり奄美市の魅力。若者の立場から、気軽に集まれてやりたいことに挑戦できる場所が増えたらいいなと思います。進学や就職で島を出ていった人が多いけど、地元に残っても夢が持てたり、成長できるって感じられる環境がもう少しあればいいなと思います。

里 やっぱり奄美の人って温かいんですよね。先日、島外に出たんですけど、島に帰ってくると、ゆっくり過ごせるっていうか。人のつながりも温かいし、なんか癒やされるっていうか。商店街に学生がふらっと立ち寄れる場所があったら、にぎやかになるのかなと思う。また雨の日でも行ける施設がもうちょっと増えてくれたらいいと思う。

宮崎 好きなどころは、自然が豊かで海もきれいで、島のみんが優

しいなって感じるところ。長居できるカフェやワークスペースが増えたらいいなって思います。

世門 地域の方々が優しく声を掛けてくれるところが住みやすいと思うところ。小さい子が遊ぶところが少ないことと、小児科や産婦人科など不足している医療を充実させてほしい。

中島 皆さんがおっしゃっているように海や山とかが身近にあり、生活の中で自然が感じられるところが大好き。高校生とかが進学や就職を島内で考えるとき、島の外に出る必要がある場面が多い。もっと選択肢が広がっていくことに期待します。

市長 ありがとうございます。コミュニケーションのしやすさとか、自然の美しさや豊かさ、多様な文化が身近にあるとか、私も非常に感じているところなんです。一方で、奄美市にも遊べる場所や進路の選択肢などまだまだ足りない部分がいっぱいあると思っています。実は奄美市では商店街の近くに子育て保健福祉複合施設をつくらうと考えています。

25面に続く

20歳の皆さんと

市長 奄美市は合併20周年だが、皆さんが物心ついたときは奄美市だったと思います。その前は名瀬市と笠利町、住用村とあった。それぞれ地域性、独自性のある地域づくりを進めているが、笠利、住用について良いところを挙げてほしい。

世門 高校は笠利だったが、海がきれいで自然を味わえた。カヌーをしていたが高校の近くに練習できる環境があった。

田所 住用は緑がいっぱいで私はそういうところが好き。学校帰りにかわいいウリ坊（イノシシの子ども）を見たことがある。

■世界自然遺産 登録5周年■

市長 世界自然遺産に登録されてから5周年を迎える。世界自然遺産について皆さん何か思っていることを聞かせてください。

時岡 3年前に京都で初詣をした際、後ろの人が「奄美に行きたいね」とって世界自然遺産登録や自然のことについて話していたことが衝撃的で、とてもうれしかった。奄美の名が全国的に広がり、皆さんに知っていただけがいい機会になっている。

里 登録で私も自然に対する思いが変わった。奄美の自然に対して誇りに思うことが多くなった。



安田 壮平市長

宮崎 笑顔で過ごせていることが幸せ。これからももっといろんな人の関わりを広げていって充実した毎日にしていきたい。

世門 学校に行つて勉強し、友達と話したりしている当たり前前の生活ができることがもう幸せ。自分だけでなく、子どもから高齢者までいろんな方々が、笑顔で暮らしていければ自分は幸せだな



26面に続く、



宮崎 南実さん

いて、人とのつながりがあり、安定した生活を送り、精神的に充実している状態だと思う。奄美の環境がすごくそれに適していると思っていて、今すごくハッピーです。東京で就職するので、10年後は奄美に帰ってきてまたコクトクんに会えたら幸せ。

市長 奄美市は将来像として「しあわせの島」というビジョンを掲げています。皆さんの幸せとは何ですか。

中島 自然に囲まれていて、人とのつながりがあり、安定した生活を送り、精神的に充実している状態だと思う。奄美の環境がすごくそれに適していると思っていて、今すごくハッピーです。東京で就職するので、10年後は奄美に帰ってきてまたコクトクんに会えたら幸せ。

うな看護師になればいいなと思っています。実習で新生児に関わらせていただき、親子の絆ってとてもすてきなと思った。将来は家庭を築いて新しい命を育てていくのもまた幸せなんじゃないかと思っています。

青木 普通に学校に行つて授業を受けて友達としゃべったり、どっか行って遊んだりするのが幸せだと思つている。島に残つて就職するが、何気ない一日を過ごしながら、奄美でまた見たことのないものを見つかりながら、幸せを感じられたらいいなと思ってしています。

田所 20歳になったことで、行ける場所が広がった。飲み会などでも盛り上がり、本土から来た友人らとも仲良くなつた。実習などでうまくいかないこともあって落ち込んだりもするが、利用者の方々がやさしく接してくれてとても幸せだと感じている。

■島民全体の幸せ、
理想は■

市長 皆さんの幸せに
対する考え方、非常に素
晴らしいと思いました。
これまで話してきたこと
とも重なるかもしれない
ですが、市民とか島民全
体の幸せという観点で考
えたいときに今どうなの
か、そして理想はどうい
うようになってほしいの
か、ということについて何
か。

里 名瀬の大熊町に住
んでおり、八月踊りだっ
たり地域で集まる行事が
多いが、年々集まる人が
減っていると感じる。子
どもも少なくなっており、
子どもが育てやすく、
高齢者も住みやすくなる

ような制度がほしい。人
生を通して過ごしやすい
奄美大島になってほし
い。

田所 空き家をリフォ
ームして、年齢的に高齢
者施設に入所できない人
や、障がいがある人が預
け入れられる施設を奄美市
で整備してはどうでしょ
うか。

時岡 街中で妊婦さん
や赤ちゃんを抱っこして
いる人を見掛けなくなっ
た。お母さんはとても大
変なので、生まれる前
と後のケアをもっと充実
させてほしい。子どもを
生み育てたいと思えるよ
うな対策を取ってほし
い。



時岡 優里奈さん

学校の皆さん、デジタル
の力で街をこうしたい、
生活をこうしたい、こう
いうことをやってほしい
という意見がありません
か。

世門 親は紙で育った
世代で、デジタルは分か
らず自分たちに教えても
らうことも多い。動画な
どを使って、高齢の方で
もわかりやすく説明する
ことでデジタル化を進め
られると思う。

時岡 個人的に市長
のインスタグラムを拝
見させていただいてい
る。インターネットの影
響は大きい。市長にYo
uTube（ユーチュー
ブ）もやってほしい。観
光地を巡って市長がPR
したりするのもいいと思

市長 貴重なご提言あ
りがとうございます。奄
美市がしあわせの島を目
指す上で、情報処理専門

■デジタルの
活用策について■



里 聖斗さん

りから終わりまでをサポ
ートできるシステムを作
れるようになったらいい
など思っています。

里 自分も子育ての
ことをお医者さんとス
マホとかを使って相談
できるようなシステム
があったらいいと思
っています。ささいなこ
とでもすぐに聞けるよう
な子育てを助けるシス
テムを作りたいなって思
います。

青木 紙で書くのはめ
んどくさいので、書類な
どはタブレットとかで簡
単にできるようにしては
どうか。間違ってもすぐ
に修正できるし、管理も
紙より簡単で便利だと思
う。

市長 奄美市も若者を
支援するさまざまな取り
組み、環境づくりをして



中島 昊太郎さん

いるが、市にどういった
支援をしてほしいのか伺

里 資格取得の際に補
助があればうれしい。
会場が島外だったりす
ると旅費がかかり大変
だ。

中島 奄美で受けられ
ない資格もある。奄美も
対象となるようにできな
いだろうか。また、奄美
に移住して来た人に、何
年住んだらこういう支援
があるとかっていうよう
な継続的な支援策をつく
ってほしい。



■どんなことに
挑戦したい■

市長 ありがとうございます。最後に今後挑戦したいこと、それと合わせて奄美市にどんな街になってほしいかを全員に伺います。

田所 まずは介護士の国家資格を取得したい。その後ケアマネージャーの資格も取りたい。奄美市はこれから観光客が増えてくると考えられるので、くるくる（アマミノクロウサギミュージアム）のような奄美特有の施設が増えたらいいと思う。

青木 今まで行ったことがない場所を巡ってみたい。若者ももっと暮らしやすいなって、この島に残ってくれるような場所になってほしい。



世門 憂汰さん



青木 隆さん

時間 自分の行動とか言動とかに大人としての責任を持ちながら島唄とかボランティア、地域行事とかにより主体的に関わっていきけるようにしていきたい。島唄や文化が受け継がれ、人と人が支え合えるような誇れるふるさとになってほしい。

里 就職で島外に出るので、資格も取得して将来は奄美で起業したい。

起業した会社で奄美情報処理専門学校生徒を採用したい。世界に誇る自然を大切にして、文化なども守ってほしい。若者が深く文化に入れていないと感じているので、そういった活動もしてほしいし、観光客の人たちが入れる祭り体験ツアーなどがあってもいいと思う。

宮崎 20年間、奄美に住んでいてもまだ知らない場所とかがあるので、もっと調べて行ってみたい。今しかできないことをちゃんと考えながら過ごしていきたい。縦と横のつながりをもっと大切にして、にぎやかな街になってほしいと思います。

世門 祭りの踊りとかに積極的に参加し、伝統



田所 あかりさん

を守っていききたい。自分は看護学生なので、看護師目線で考えると、これからもっと高齢者が増えていくので、もっと気軽に診察できる場所が増えたい。

中島 一度、奄美を離れて島外の世界でさまざまな経験をしてみたい。その中で自分にできることを見つけて、いつか奄美大島や育ててくれた奄美情報処理専門学校に少しでも恩返しできたらなと思っています。自然や文化を大切にしながら、島を出ることも戻ってくることも前向きに受け止めてもらえる奄美市であり続けてほしいと思っています。

■地域全体で
しあわせの
島づくりへ■

市長 ありがとうございます。皆さんのおかげでも充実した座談会になりました。貴重なご意見、ご提言をいただき本当に感謝しております。これからも、奄美市が良くなるように多くの皆さまに幸せを感じてもらえるように、そういう地域づくりを目指して頑張っていきたい。行政だけでは実現できませんので、ぜひ地域全体でしあわせの島づくりに向けてそれぞれができることをやっていきたいなと思います。これからも引き続き学びながら成長しながら頑張っていきたいと思います。

う。10年後、奄美市が30周年になり、皆さんが30歳になったとき、いただいたご意見が実現していると思うっていただけるように頑張っていきたいと思います。きょうは本当にありがとうございました。



世帯数
19,240世帯



令和7年10月1日現在
令和7年推計人口

人口
38,486人



1世帯当たり 2.00人
令和7年10月1日現在
令和7年推計人口

出生
210人



1日当たり 0.58人
令和6年10月～令和7年9月

死亡
583人



1日当たり 1.60人
令和6年10月～令和7年9月

転入者
1,983人



1日当たり 5.43人
令和6年10月～令和7年9月

転出者
2,257人



1日当たり 6.18人
令和6年10月～令和7年9月

結婚
150組



1日当たり 0.41組
令和6年度

離婚
79組



1日当たり 0.22組
令和6年度

乗用車保有台数
21,166台
(令和7年3月末現在)



1世帯当たり 1.12台

奄美空港旅客数
862,368人
乗客 431,956人
降客 430,412人



1日当たり 2,363人
(乗客1,183人 降客1,179人)
令和6年度

名瀬港乗降客数
127,290人
乗客 68,845人
降客 58,445人



1日当たり 349人
(乗客189人 降客160人)
令和6年1月～令和6年12月

使用電力量
268,199千kWh



販売電力量
令和6年度
5市町村管内の合計値(推計)

都市ガス消費量
1,331千 m^3



令和6年度

水道給水量
5,592千 m^3



令和6年度

ゴミ
16,478トン



令和6年度

し尿
7,920kl



令和6年度

令和7年度(2025年度)統計書「数字で見る奄美市」に掲載している「絵でみる奄美市民の暮らし」をご紹介します。

詳細は右の二次元コードまたは「数字で見る奄美市」と検索していただくと奄美市公式ホームページからご確認いただけます。



火災
18件



20日に1件
令和7年1月～令和7年12月

交通事故
48件



1日当たり0.13件
令和6年1月～令和6年12月

犯罪
発生239件 検挙95件



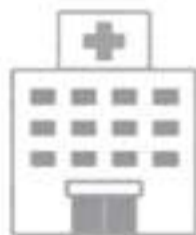
1日に発生0.65件
検挙0.26件
令和6年1月～令和6年12月

救急出動
2,690回



1日に7.37回
令和7年1月～令和7年12月

医療施設数
41施設



市民954人に1施設
令和6年10月1日現在

児童・生徒数
小学校 2,146人
中学校 1,089人



教員1人当たり 小学生9.1人
中学生7.0人
令和7年5月1日現在

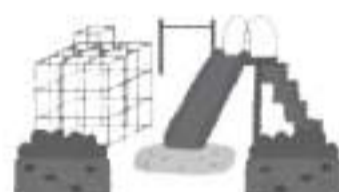
進学率

高校 98.2%
大学等 46.8%



令和7年3月卒業者

公園面積
552,330㎡



市民1人当たり 14.5㎡
令和7年4月1日現在

奄美市の面積
308.33km²



令和7年3月現在

製造業出荷額
503,962万円



1事業所当たり 8,542万円
2024年経済構造実態調査

所得
107,737百万円



令和4年度市町村民所得推計

市税
4,236百万円



市民1人当たり 111,125円
令和6年度決算

市決算

普通会計歳出
35,587百万円



市民1人当たり 933,748円
令和6年度決算

普通会計歳入
37,297百万円



市民1人当たり 978,590円
令和6年度決算

市職員数
593人



職員1人当たり市民数 64.3人
令和7年4月1日現在

消防職員数
85人



職員1人当たり市民数 448人
令和7年4月1日現在

注)一人当たり等の数は推計人口より算出



奄美市が
目指す未来像

A VISION OF FUTURE AMAMI

自然・人・文化が紡ぐしあわせの島

～自然もひと多様性を尊重し合える なつかしい未来都市 奄美市～

2039年

「しあわせの島」に到着だ!

未来の奄美市づくり計画

「しあわせの島」を作るための 3つの重要アクション

1 みんなで生活満足度を高めよう みんなのしあわせ レベルアップ大作戦

子育て環境を充実させ、働きやすい職場をつくり、安心できる住まいを確保しよう!健康づくりと医療体制を強化し、災害に強いまちづくりにチャレンジ!

2 成長の源泉である元気な経済活動を目標そう 島の経済エネルギー 活性化ミッション

地元企業の成長を支援し、若者のチャレンジや起業を応援しよう!情報発信の充実やデジタル技術を導入し、海外からの収入UPを目標そう!

3 未来を担う次世代へ 「しまの誇り」を継承することを目標そう しまの誇り継承プロジェクト

地域行事・文化を芸術活性化し、世代間交流を促進しよう!世界自然遺産として認められた自然環境を受け継いでいくため、子どもたちへの環境教育を推進しよう!



つなぐ! CONNECTION 「しまの誇り」の継承

- 私ができること
- 地域行事へ参加しよう
- 島のことを知るから始めよう
- しまの中で自分が好きなモノ・コトを持とう

つなぐ! WORK 経済活動の活性化

- 私ができること
- 働きがられるくらい、しまの「美しい」を発信しよう
- 楽しく働きましょう
- しまで買えるものはしまで買おう

つなぐ! LIFE 生活満足度の向上

- 私ができること
- 「困った」を一人で抱え込まないで親や近所、行政に相談を
- 検診を受けよう(早期発見・早期治療)
- 災害に備えよう

2027年のレベルアップ目標

奄美市のステータス

目標1 社会福祉をプラスにする!	現在 マイナス132人*	目標 プラス1人*
↳ まだマイナス...でも改善中! 住居・生活コストを下げよう!	ついに人口減をストップ!	
目標2 子育て世代を増やす!	現在 10,339人*	目標 9,657人*
↳ 子育て世代の島づくり推進中!	子育て世代が住み続けたい島に!	
目標3 出生数を増やす!	現在 261人*	目標 245人*
↳ 子育てファミリー応援中!	子どもの笑顔が溢れる島に!	
目標4 人口減少に対応できるしまづくり	現在 企業デジタル化率: 58%*	目標 企業デジタル化率: 70%*
↳ スマートアイランド制進行中!	最新で効率的な島暮らし実現!	

STAGE CLEAR!

8 みんなで「しまさばくり」をしよう

島内や地域活動の活性化による地域づくりと防災連携の体制構築を速めよう!

7 世界の宝にふさわしいしまにしよう

世界の宝(生物多様性)を守り、持続可能なしまづくりを推進しよう!

6 しまで学ぼう しまに学ぼう

未来を切り拓く教育の推進と地域とともにある学校づくりを目標そう!

5 しまの「しごと」を応援しよう

観光関連産業の進化や「かきあげの島産水産物」の実現、チャレンジできる環境整備を推進しよう!

4 しまで働く人を増やそう

「働き手確保」に向けた対策や外資を呼び込むづくり、多様な働き方を推進しよう!

チェックポイント

① みんなのしあわせレベルチェック
数値では測れない...一人ひとりの思いも大切に!
奄美市幸福度調査アンケートで毎年みんなの気持ちをチェック

② 人口減少対策の効果をチェック
令和7年国勢調査地の人口が38,904人*を上回っているかをチェック
令和7年国勢調査、令和7年国勢調査人口

START!

1 子育ての「困った」をなくそう

子育て環境を充実させ、みんなにやさしい「子育てのしま」づくりにチャレンジ!

2 健康・医療の「不安」をなくそう

市民主体の健康づくりを推進し、健康を支える島づくりを目標そう!

3 身近な生活の「問題」をなくそう

防災確保による活気のあるしまづくりに災害に強いまちづくりにチャレンジ!

4 しまで働く人を増やそう

「働き手確保」に向けた対策や外資を呼び込むづくり、多様な働き方を推進しよう!

MISSION レベルアップのために! 3年間でクリアすべき 8つのミッション



奄美市市制施行20周年記念 市政功勞表彰者

(順不同・敬称略)

自治功勞	朝山 毅
自治功勞	東 美佐夫
自治功勞	西 公郎
自治功勞	関 誠之
自治功勞	元野 景一
自治功勞	戸内 恭次
自治功勞	山下 哲次
自治功勞	元井 孝信
自治功勞	和田 美智子
自治功勞	松中 洋一
自治功勞	中島 秀一
自治功勞	高井 直人
自治功勞	川口 君美代
公共公益活動功勞	武田 俊樹
公共公益活動功勞	森田 勇
公共公益活動功勞	河野 京子
公共公益活動功勞	里 和彦
公共公益活動功勞	男女共同参画あまみ会議
公共公益活動功勞	有屋町内会
公共公益活動功勞	奄美地区交通安全協会 会長 浜田 幸雄
公共公益活動功勞	奄美大島防犯団体連絡協議会 地域安全モニター 総代 岡 幸一郎
保健・医療・福祉功勞	益満 久美
保健・医療・福祉功勞	金城 三雄
保健・医療・福祉功勞	重信 千代乃
保健・医療・福祉功勞	花井 牧子
保健・医療・福祉功勞	社会福祉法人三環舎理事長 向井 扶美
保健・医療・福祉功勞	泉 弘子
保健・医療・福祉功勞	竹田 政茂
保健・医療・福祉功勞	田原 美雪
保健・医療・福祉功勞	松下 一人士
保健・医療・福祉功勞	貴島 茂子
保健・医療・福祉功勞	河野 幸代
保健・医療・福祉功勞	肥後 初範
産業・経済功勞	有村 修一
産業・経済功勞	柗田 謙夫
産業・経済功勞	奥 篤次
教育・文化・スポーツ功勞	恵上 イサ子
教育・文化・スポーツ功勞	岡山 嗣夫
教育・文化・スポーツ功勞	久保井 博彦
特別功勞	才納 壽二
特別功勞	徳田 昌子
特別功勞	奄美パーク園長 宮崎 緑
特別功勞	コクトくん

～みんなで築こう しあわせの島～ 奄美市市制施行20周年「記念式典」

【オープニング】

合唱（名瀬市民合唱団）
奄美市20年の歩み（スライド）

【式典次第】

1. 開式のことば 諏訪 哲郎 奄美市副市長
2. 国歌斉唱
3. 奄美市民憲章朗読
4. 式 辞 安田 壮平 奄美市長
5. あいさつ 多田 義一 奄美市議会議長
6. 市政功勞者表彰
7. 来賓紹介
8. 来賓祝辞 塩田 康一 鹿児島県知事
三反園 訓 衆議院議員
9. 祝電披露
10. 未来へのメッセージ
前島 美依菜 宇宿小学校6年
中村 海莉 市中学校3年
祐名 姫花 奄美高校2年
11. 閉式のことば 向 美芳 奄美市教育長

【アトラクション】

名瀬市民合唱団
朝日中学校吹奏楽部



※画像・文章等の無断転載を禁じます

奄美市ホームページ



AMAMI CITY
20th Anniversary of Establishment
奄美市 市制施行
20周年

発行 奄美市総務部企画調整課
〒894-8555 鹿児島県奄美市名瀬幸町25番8号
☎0997-52-1111 FAX 0997-52-1001



編集・印刷：(株)南海日日新聞社